

令和6年厚木市教育委員会9月定例会日程

日時 令和6年9月27日(金)

午後2時から

場所 第二庁舎4階教育委員会会議室

1 開会

2 教育長報告

3 審議事項

日程1 議案第36号 厚木市厚木こども科学賞審査会委員の委嘱について【教育指導課】

4 報告事項

(1) 事務の臨時代理の報告について（厚木市立小学校及び中学校の通学区域等に関する規則の一部を改正する規則について）【教育総務課】（資料1）

(2) 事務の臨時代理の報告について（厚木市学校運営協議会委員の任命について）

【教育総務課】（資料2）

(3) 令和6年度全国学力・学習状況調査に係る厚木市立小・中学校の調査結果について

【教育研究所】（資料3）

5 閉会

令和6年9月定例教育委員会教育長報告

令和6年8月20日（火）に開催されました8月定例会以後の主な行事等24件につきまして、御報告申し上げます。

- 1 8月22日（木） 厚木市役所第二庁舎 5階 教育長室
叙位伝達式及び高齢者叙勲伝達式
- 2 同 日 厚木市役所第二庁舎 4階 教育委員会会議室
第2回厚木市小・中学校教頭会議
- 3 同 日 厚木市立睦合北公民館
令和6年度あつぎタウンミーティング
○対象地区 睦合北地区
○参加者数 6人
- 4 8月23日（金） 厚木市立緑ヶ丘公民館
令和6年度あつぎタウンミーティング
○対象地区 緑ヶ丘地区
○参加者数 7人
- 5 8月24日（土） 厚木市保健福祉センター 6階 ホール
令和6年度厚木児童思春期精神保健講座 第28回本講座
○参加者数 99人
- 6 同 日 厚木市立愛甲公民館
令和6年度あつぎタウンミーティング
○対象地区 南毛利南地区
○参加者数 12人
- 7 8月27日（火） 厚木市立睦合西公民館
令和6年度あつぎタウンミーティング
○対象地区 睦合西地区
○参加者数 9人
- 8 8月28日（水） 厚木市役所第二庁舎 16階 会議室B
令和6年度関東中学校体育大会出場報告会
○出席者数 8人（生徒2人、校長及び顧問4人、保護者2人）

- 9 同 日（8月28日） 厚木市立厚木北公民館（仮事務所）
令和6年度あつぎタウンミーティング
○対象地区 厚木北地区
○参加者数 12人
- 10 8月29日（木） 厚木市役所本庁舎 4階 秘書課第二応接室
2024年度全国ヤングクラブバレーボール大会兼関東U-14クラブ大会神奈川県
予選会優勝報告 市長表敬訪問
○訪問者 藤塚中学校生徒、家族
- 11 同 日 厚木市役所第二庁舎 4階 教育委員会会議室
令和6年厚木市教育委員会第1回臨時会
- 12 9月 2日（月） 厚木市役所本庁舎 4階 秘書課第二応接室
令和6年度全国中学校体育大会出場報告会
○出席者数 6人（相川中学校生徒2人、校長、陸上部顧問、保護者2人）
- 13 9月 5日（木） 厚木市役所第二庁舎 5階 教育長室
厚木市立中学校「職場体験活動」参加生徒と面会
○出席者 玉川中学校生徒3人
- 14 9月 7日（土） 本厚木駅北口広場ほか
第36回心と街のクリーン作戦
○参加者数 47人
- 15 同 日 あつぎ市民交流プラザ 5階 あつぎアートギャラリー
令和6年度厚木愛甲地区中学校文化連盟芸術祭 部活動展示部門発表会
○参加校数 17校（厚木市：13校、愛川町：3校、清川村：1校）
- 16 9月19日（木） 神奈川県立宮ヶ瀬湖カヌー場
飯山小学校6年生校外学習「宮ヶ瀬カヌー体験」視察
- 17 同 日 厚木市役所第二庁舎 5階 教育長室
令和6年度優良PTA神奈川県教育委員会表彰受賞報告
○訪問者 依知中学校PTA前会長、校長
- 18 同 日 厚木市役所第二庁舎 5階 教育長室
厚木市中学校長会 令和7年度予算要望
○訪問者 校長会長ほか3人

- 19 9月20日(金) 厚木市立戸田小学校ほか
学校訪問
○訪問校 戸田小学校、相川中学校
- 20 同 日 厚木市役所第二庁舎 5階 教育長室
厚木市小学校長会 令和7年度予算要望
○訪問者 校長会長ほか4人
- 21 9月24日(火) 厚木市立北小学校ほか
学校訪問
○訪問校 北小学校、上依知小学校
- 22 9月25日(水) 厚木市立南毛利中学校ほか
学校訪問
○訪問校 南毛利中学校、林中学校、睦合中学校
- 23 9月26日(木) 厚木市役所第二庁舎 16階 会議室A
令和6年度東関東吹奏楽コンクール出場報告会
○出席者 厚木中学校吹奏楽部生徒21人(3年生)、校長、吹奏楽部顧問
- 24 令和6年厚木市議会第6回会議(9月定例会議)
- ① 会議期間
9月2日(月)から10月7日(月)まで(36日間)
- ② 本会議(9月2日(月))
- | | |
|-----------------------|------|
| ○議案第63号 動産の取得について(追認) | 【可決】 |
| ○議案第64号 動産の取得について(追認) | 【可決】 |
| ○議案第65号 動産の取得について(追認) | 【可決】 |
| ○議案第66号 動産の取得について(追認) | 【可決】 |
| ○議案第67号 動産の取得について(追認) | 【可決】 |
| ○議案第68号 動産の取得について(追認) | 【可決】 |
| ○議案第69号 動産の取得について(追認) | 【可決】 |
| ○議案第70号 動産の取得について(追認) | 【可決】 |
- ③ 本会議 一般質問(9月6日(金)から10日(火)まで)
21人の議員から質問があり、うち教育委員会関係は6人でした。
○高橋豊 議員
- (1) 教育行政について
- ア 通学路の安全対策について
- (ア) 現状と課題は。

○栗山香代子 議員

(1) 市政一般について

ア 社会教育について

(ア) 第2次厚木市教育振興基本計画との関連は。

○望月真実 議員

(1) 教育行政について

ア 学校行事等について

(ア) 減少、縮小傾向の子どもの育ちに対するメリット、デメリットは。

イ 厚木の教育について

(ア) 軸となる考えは。

○津森英里花 議員

(1) 市政一般について

ア 子どもの支援について

(ア) 特別な支援を要する児童・生徒への支援体制の現状と課題は。

○高田浩 議員

(1) 小・中学生への「いじめ」について

ア 学校や教育委員会の対応について

(ア) 見解を問う。

○名切文梨 議員

(1) 教育行政について

ア 着衣水泳について

(ア) 現状と考えは。

④ 本会議（9月10日（火））

○議案第46号 教育長の任命について

【同意】

⑤ 環境教育常任委員会（9月18日（水））

○陳情第5号 国による義務教育財源の保障、教育の機会均等と水準の維持・向上並びに行き届いた教育の実現を求める意見書を国に提出することを求める陳情

【採択すべきもの】

⑥ 予算決算常任委員会 環境教育分科会（予算議案）（9月18日（水））

○議案第62号 令和6年度厚木市一般会計補正予算（第4号）

⑦ 予算決算常任委員会 環境教育分科会（決算議案）（9月26日（木））

○議案第48号 令和5年度厚木市一般会計歳入歳出決算について

**議案第 36 号については、
非公開案件となります。**

事務の臨時代理の報告について

厚木市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第3条の規定により、別紙のとおり臨時に代理したので、同規則第6条の規定により報告する。

令和6年9月27日提出

厚木市教育委員会
教育長 佐 後 佳 親

臨 時 代 理 書

厚木市立小学校及び中学校の通学区域等に関する規則の一部を改正することについて、別紙のとおりその事務を臨時に代理する。

令和6年9月19日

厚木市教育委員会
教育長 佐 後 佳 親

理由

厚木市森の里東土地区画整理事業施行地区における町名地番整理の実施に伴い、厚木市立小学校及び中学校の通学区域等に関する規則の一部を改正する必要性が生じたが、教育委員会会議を招集する時間的余裕がないので、厚木市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第3条の規定により、その事務を臨時に代理する。

厚木市立小学校及び中学校の通学区域等に関する規則の一部を改正する規則

厚木市立小学校及び中学校の通学区域等に関する規則（昭和61年厚木市教育委員会規則第6号）の一部を次のように改正する。

別表（小学校）の表小鮎小学校の項中「下古沢」を「下古沢 森の里紅葉台」に改める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

新旧対照表

※下線部分が変更部分

新		旧	
別表(第2条関係) (小学校)		別表(第2条関係) (小学校)	
学校名	通学区域	学校名	通学区域
略	略	略	略
小鮎小学校	飯山の一部 飯山南一丁目 飯山南二丁目 飯山南三丁目 飯山南四丁目 飯山南五丁目の一部 上古沢 <u>下古沢 森の里紅葉台</u>	小鮎小学校	飯山の一部 飯山南一丁目 飯山南二丁目 飯山南三丁目 飯山南四丁目 飯山南五丁目の一部 上古沢 <u>下古沢</u>
略	略	略	略

事務の臨時代理の報告について

厚木市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第3条の規定により、別紙のとおり臨時に代理したので、同規則第6条の規定により報告する。

令和6年9月27日提出

厚木市教育委員会
教育長 佐 後 佳 親

臨時代理書

厚木市学校運営協議会委員の任命について、別紙のとおりその事務を臨時に代理する。

令和6年9月1日

厚木市教育委員会
教育長 佐 後 佳 親

理由

厚木市学校運営協議会委員に欠員が生じたことに伴い、令和6年9月1日付けで委員を任命する必要が生じたが、教育委員会会議を招集する時間的余裕がないので、厚木市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第3条の規定により、その事務を臨時に代理する。

番号	氏名	選出区分	学校名	任期
1	タカハシ ノリヒト 高橋 倫人	規則第5条第1項第4号（その他）	藤塚中学校	令和6年9月1日～ 令和7年5月31日

厚木市学校運営協議会規則（抜粋）

（委員の構成等）

第5条 協議会の委員は、20人以内（2以上の学校について1の協議会を設置したときにあっては、教育委員会が当該対象学校の校長と協議して定める人数）とし、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 当該対象学校に在籍する児童生徒の保護者
- (2) 当該対象学校の学区内に居住する住民
- (3) 当該対象学校の運営に資する活動を行う者
- (4) その他教育委員会が適当と認める者

2 対象学校の校長は、委員について候補となる者を教育委員会に推薦することができる。

3 教育委員会は、前項の規定による委員の推薦が当該対象学校の校長からあったときは、これを尊重する。

4 委員の任期は、委嘱又は任命の日から2年以内において教育委員会が定める期間とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

【藤塚中学校学校運営協議会】

(選出区分順、氏名五十音順、敬称略)

番号	氏名	選出区分	任期	備考
1	コスゲ 小菅 サダユキ 貞幸	規則第5条第1項第1号(保護者)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
2	ミヤサカ 宮坂 トシヒロ 敏弘	規則第5条第1項第1号(保護者)	令和6年6月1日～ 令和7年5月31日	
3	ワタナベ 渡邊 トシノブ 智信	規則第5条第1項第1号(保護者)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
4	イノウエ 井上 ハツミ 初美	規則第5条第1項第2号(住民)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
5	エノモト 榎本 マサユキ 正行	規則第5条第1項第2号(住民)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
6	カワサキ 川崎 イサオ 勲	規則第5条第1項第2号(住民)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
7	サトウ 佐藤 サイコ 彩子	規則第5条第1項第2号(住民)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
8	シオカワ 塩川 ヒロミ 裕美	規則第5条第1項第2号(住民)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
9	ハシモト 橋本 タカヨシ 孝義	規則第5条第1項第2号(住民)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
10	ヤゴ 矢後 ノリマサ 訓賢	規則第5条第1項第2号(住民)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
11	カンノ 菅野 ミチオ 道男	規則第5条第1項第3号(運営に資する活動)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
12	キクチ 菊地 フジオ 富士夫	規則第5条第1項第3号(運営に資する活動)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
13	ウメザワ 梅澤 ミノル 稔	規則第5条第1項第4号(その他)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
14	コジマ 小島 ヒロノブ 宏信	規則第5条第1項第4号(その他)	令和6年4月1日～ 令和7年5月31日	
15	スダ 須田 ツヨシ 剛	規則第5条第1項第4号(その他)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
16	タカハシ 高橋 ノリヒト 倫人	規則第5条第1項第4号(その他)	令和6年9月1日～ 令和7年5月31日	新任
17	ヒビノ 日比野 カズキ 一輝	規則第5条第1項第4号(その他)	令和6年6月1日～ 令和7年5月31日	
18	フルヤ 古屋 アヤノ 彩乃	規則第5条第1項第4号(その他)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
19	モリモト 森元 ユウキ 勇気	規則第5条第1項第4号(その他)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	
20	ユウキ 結城 マサトモ 政朝	規則第5条第1項第4号(その他)	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日	



令和6年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について

厚木市教育研究所



目 次	ページ
1 調査の概要	1
2 調査結果の解釈等に関する留意事項	2
3 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果	2
(1) 小学校 国語の主な結果（平均正答率）について	3
(2) 小学校 算数の主な結果（平均正答率）について	8
(3) 中学校 国語の主な結果（平均正答率）について	13
(4) 中学校 数学の主な結果（平均正答率）について	18
4 児童・生徒質問調査の結果	23
5 考察	32
6 あつぎの学びの充実・改善のヒント	38

令和6年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について

小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に、令和6年4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。教育委員会では、今回の分析結果を踏まえ、教育施策の成果や課題等を把握・検証し、今後の教育施策に反映するとともに、各小・中学校において、校長のリーダーシップの下、各教員が指導内容・方法の改善を進める支援をしてまいります。

I 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、改善を図る。
- イ 学校における個々の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年 小学校第6学年及び中学校第3学年

(3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査 小学校：国語、算数 中学校：国語、数学
 - ※ 平成30年度までは、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を分けて調査していましたが、平成31年度調査から一体的に問われることとなりました。
- イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ・児童・生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
 - ・学校に対する調査
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

(4) 調査の方式 悉皆調査

(5) 調査日 令和6年4月18日(木)

(6) 調査に参加した児童・生徒数

	国語	算数・数学	児童・生徒質問紙
小学校	1,681人	1,680人	1,697人
中学校	1,649人	1,651人	1,676人

(参考) 全国・県・市の公立学校の参加校数

	小学校	中学校
全国(公立)	18,529校	9,347校
神奈川県	853校	418校
厚木市	23校	13校

2 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童・生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意が必要です。

また、平均正答数・平均正答率（※）については、各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要です。

さらに、平均正答率については、「全国学力・学習状況調査 報告書」（国立教育政策研究所）では、「平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない」としており、本市でも「平均正答率の±10%」を目安として調査結果を整理しました。

※ 平均正答数は、児童・生徒の正答数の平均の値です。

平均正答率は、平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）です。

県と市の値は、整数値（四捨五入した数値）で文部科学省から示されています。

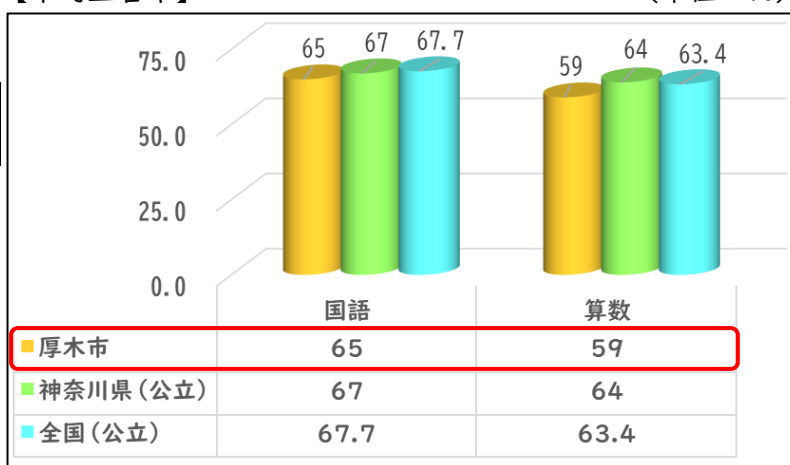
3 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果

小学校

【平均正答率】

（単位：％）

	国語	算数
平均正答数	9.1問	9.5問
質問数	14問	16問

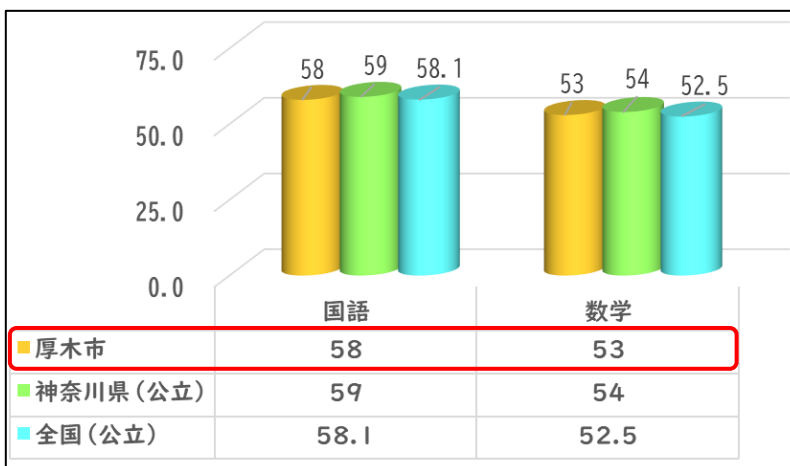


中学校

【平均正答率】

（単位：％）

	国語	数学
平均正答数	8.6問	8.5問
質問数	15問	16問



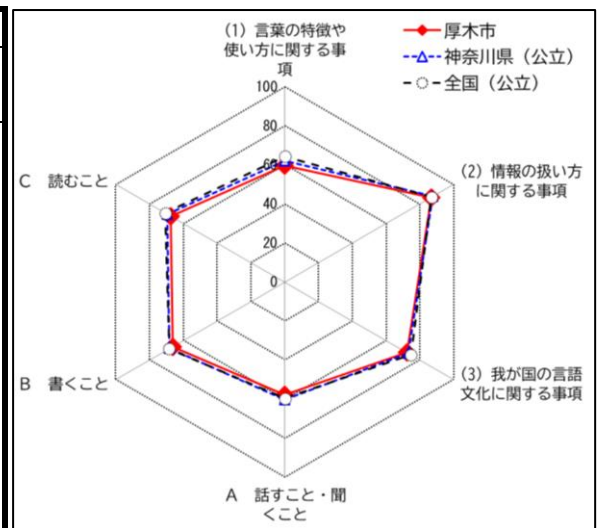
(1) 小学校 国語の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の内容】

(単位：%)

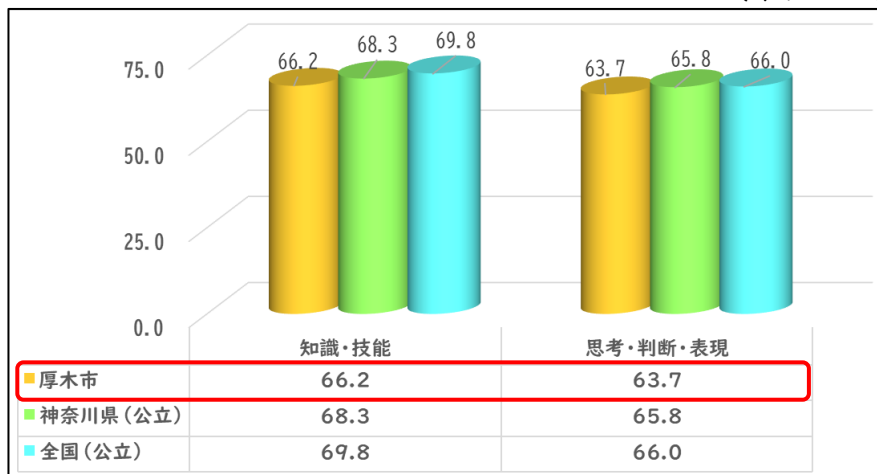
分類	学習指導要領の内容					
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
区分	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
厚木市	59.6	86.5	72.3	58.0	66.4	67.6
神奈川県(公立)	62.3	87.7	73.3	60.3	68.3	69.6
全国(公立)	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7

(単位：%)



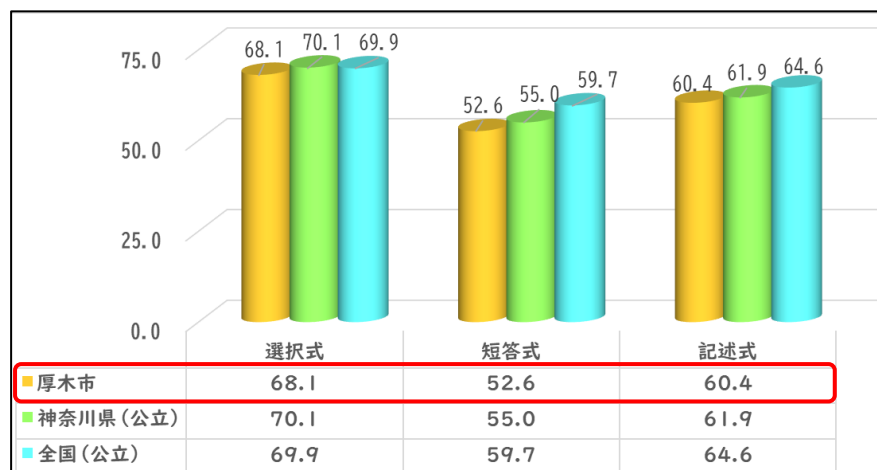
【評価の観点】

(単位：%)



【問題形式】

(単位：%)



【問題例】

本市の平均正答率が80%以上の問題

2 学校のよさを伝える文章を書く 設問一(1)

〔出題の趣旨〕

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	80.7%	81.3%	80.3%	+0.4

(1)

高山さんは、文章に書くことを決めるために、どのように考えましたか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 賛成と反対の両方の立場から考えた。

2 書きやすい順番を考えた。

3 他の人の考えを取り入れて考えた。

4 集めた情報の共通点を考えた。

(正答) 4

【高山さんのメモ】

【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。

高山さん

2

高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、【高山さんのメモ】と【高山さんの考え】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

目的や意図に応じて、集めた材料を分けたり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる児童が多いと考えられます。

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

2 学校のよさを伝える文章を書く 設問一(2)

〔出題の趣旨〕

情報同士の結び付け方や、図を用いた語句同士の関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項

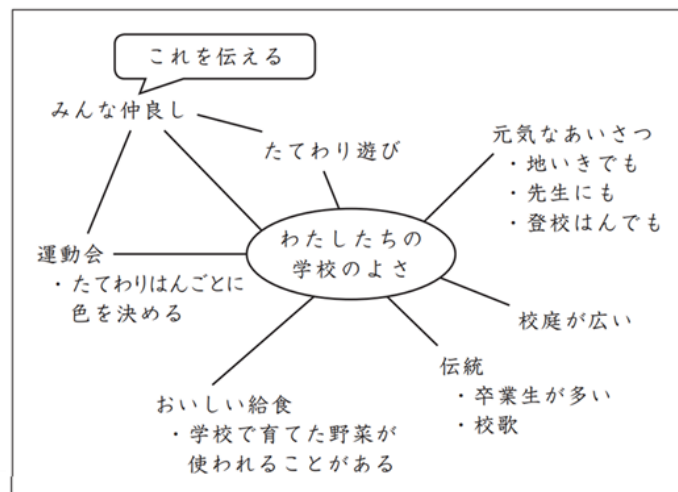
〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	86.5%	87.7%	86.9%	-0.4

- (2)
- 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 出来事が起こった順に言葉を線でつないでいる。
 - 2 中央の言葉と関係する言葉を線でつないでいる。
 - 3 似ていることがらをまとめて丸で囲んでいる。
 - 4 よい点と問題点を分けて丸で囲んでいる。
- (正答) 2

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



2 高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことになりました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、【高山さんのメモ】と【高山さんの考え】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましよう。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

複数の情報を関係付ける方法や図などを通して語句同士の関係を表す方法を理解し、使うことができる児童が多いと考えられます。

令和3年度調査から引き続き課題として捉えられる問題

2 学校のよさを伝える文章を書く 設問二

〔出題の趣旨〕

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	52.1%	55.2%	56.6%	-4.5

(正答例)

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうであんなに楽しかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流がで

〇〇〇 (条件)
「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に伝えの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに伝えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを、イ、なげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであんなに楽しかった

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、内容をもとに書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題があります。

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

2 学校のよさを伝える文章を書く 設問三 ア

〔出題の趣旨〕

学年別漢字配当表※に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

※ 学年別漢字配当表は、小学校で学習する漢字を各学年に割り当てた表であり、各学年では、前の学年に配当された漢字を書くことを身に付けるよう指導することとされています。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	38.0%	41.8%	43.4%	-5.4

三 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた。次の部ア、イを漢字でていねいに書きましょう。

漢字に書き直すことにしました。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

上級生が遠くからボールをイ 上げる

(正答) 競技

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生にたてわりの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、ア きょうぎの作戦を考えたりします。「みんなてつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょにたてわって熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイ 上げるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールを上げる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があります。

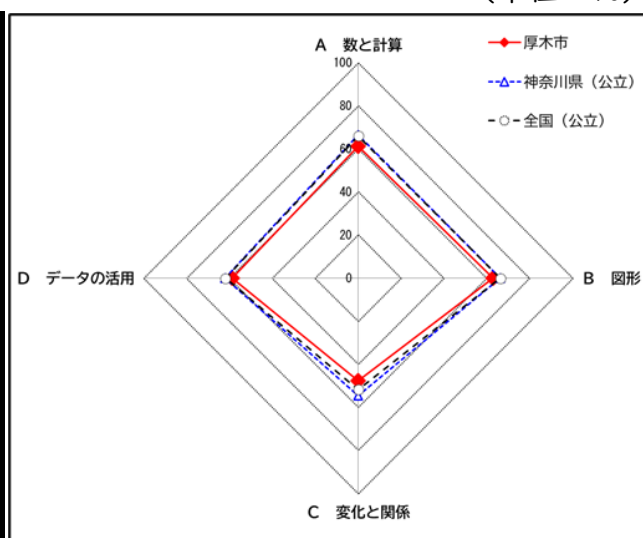
(2) 小学校 算数の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の領域】

(単位：%)

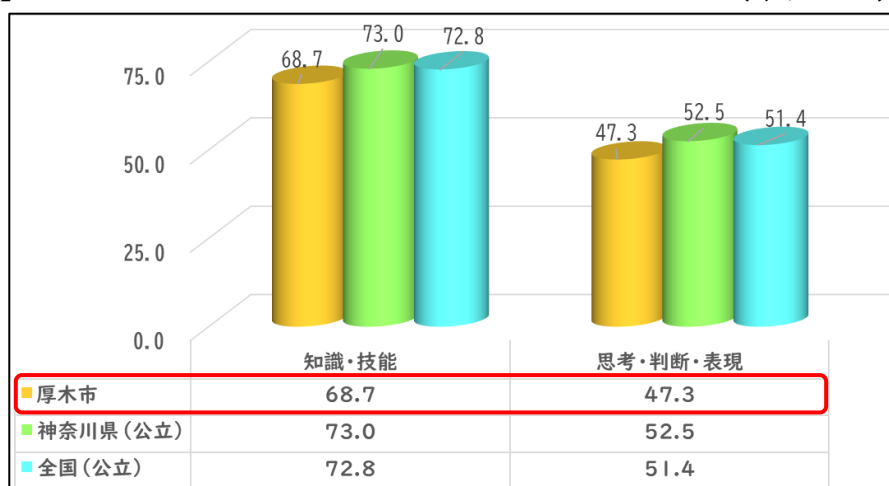
分類	学習指導要領の領域				
区分	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
厚木市	61.1	62.9	-	47.5	58.8
神奈川県 (公立)	66.5	66.2	-	54.5	62.0
全国(公立)	66.0	66.3	-	51.7	61.8

(単位：%)



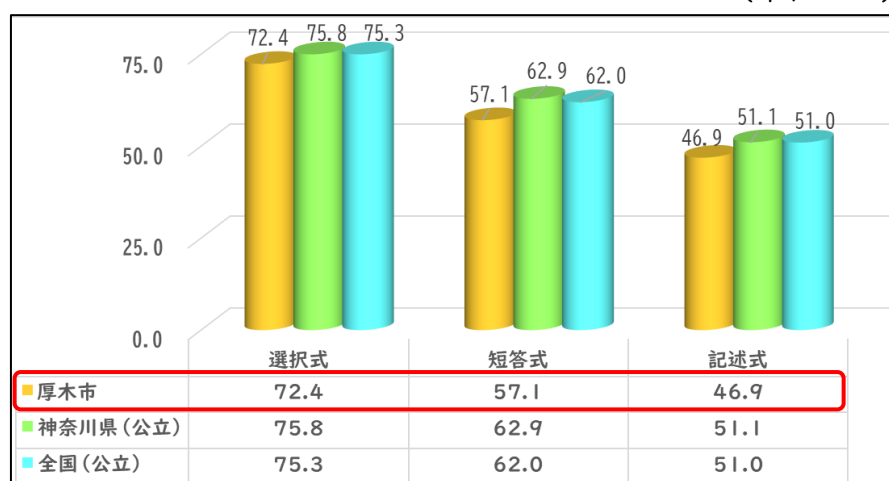
【評価の観点】

(単位：%)



【問題形式】

(単位：%)



【問題例】

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

- Ⅰ 加法や減法の問題場面の数量の関係を捉え式に表すこと（折り紙） 設問（2）
 〔出題の趣旨〕
 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる。
 〔学習指導要領の領域〕
 A 数と計算
 〔評価の観点〕
 知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	87.4%	89.9%	88.5%	-1.1

- (2) たくみさんは、はじめに折り紙を何枚か持っていました。
 ゆうまさんから 38 枚もらって、全部で 62 枚になりました。
 このことを、たくみさんがはじめに持っていた折り紙の枚数を□枚として
 式に表します。
 下の ア から エ までの中から、正しい式を 1 つ選んで、その記号を書
 きましょう。
- ア $62 + 38 = \square$
 イ $\square + 38 = 62$
 ウ $\square - 62 = 38$
 エ $\square - 38 = 62$ (正答) イ

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

数量の関係を□などの記号を用いた式で表すことできる児童が多いと考えられます。

本市の平均正答率が 80%以上の問題

- ③ 図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し立体図形について考察すること
(見取図・展開図) 設問(1)

〔出題の趣旨〕

直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

B 図形

〔評価の観点〕

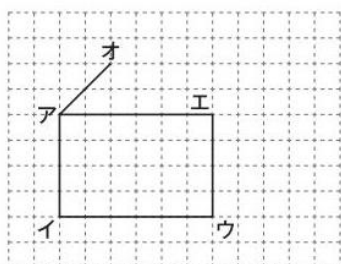
知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	85.2%	85.5%	85.5%	-0.3

ことねさんたちは、いろいろな立体について学習してきたことをふり返っています。

- (1) 直方体の見取図を、方眼紙にかいています。

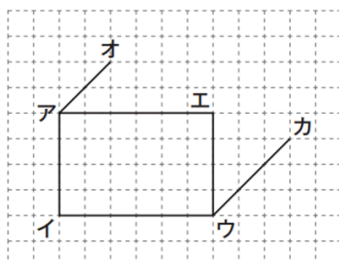
まず、下のように点アから点オまでを直方体の頂点として、かきました。



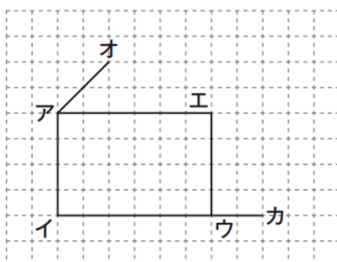
次に、下の 1 から 4 のように、点カ的位置を決めて、直方体の辺ウカをかこうとしています。辺ウカとして正しいものはどれですか。

下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

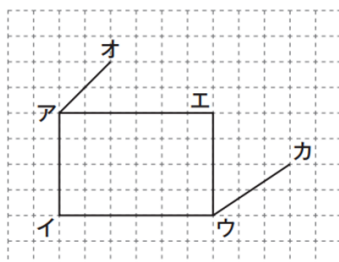
1



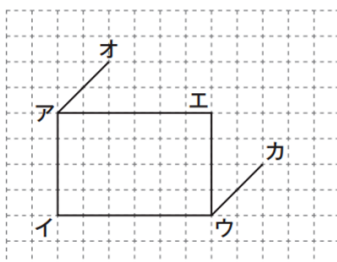
2



3



4



(正答) 4

図形の見取図について理解し、かくことができる児童が多いと考えられます。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

全国の平均正答率との差が最も大きい問題

- 4 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること
(道のりと時間と速さ) 設問(1)

[出題の趣旨]

除数※が小数である場合の除法(割り算)の計算をすることができるかどうかをみる。

※ 割り算で、割る方の数。

[学習指導要領の領域]

A 数と計算

[評価の観点]

知識・技能

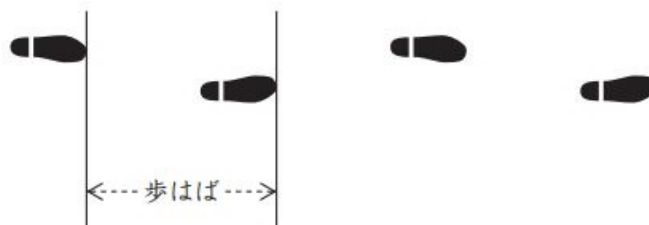
	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	59.2%	68.4%	70.1%	-10.9

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

- (1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 m です。あいなさんの歩はばを 0.6 m とします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$ を計算しましょう。

(正答) 900

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

除数が小数である場合の除法を計算することに課題があります。
誤答例 $540 \div 6$ として計算。

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

- 4 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること
(道のりと時間と速さ) 設問(3)

〔出題の趣旨〕

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

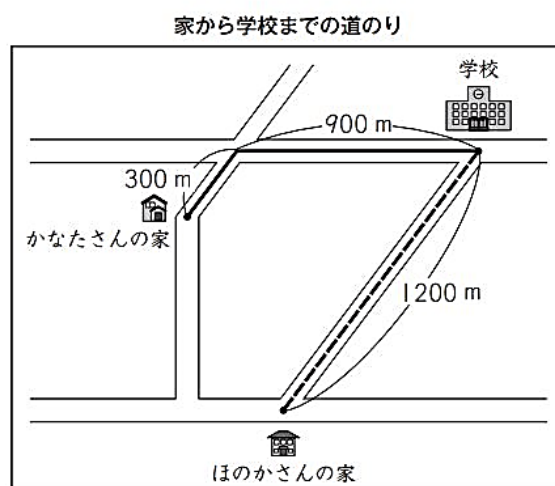
C 変化と関係

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	27.1%	33.1%	31.0%	-3.9

- (3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の **1** と **2** から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

(正答)【番号】1

【わけ】(例) かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900 + 300 = 1200$ で、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短い。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。

二つの数量の関係に着目し、道のりが等しい場合など、場面に応じて速さの比べ方を考察することに課題があります。

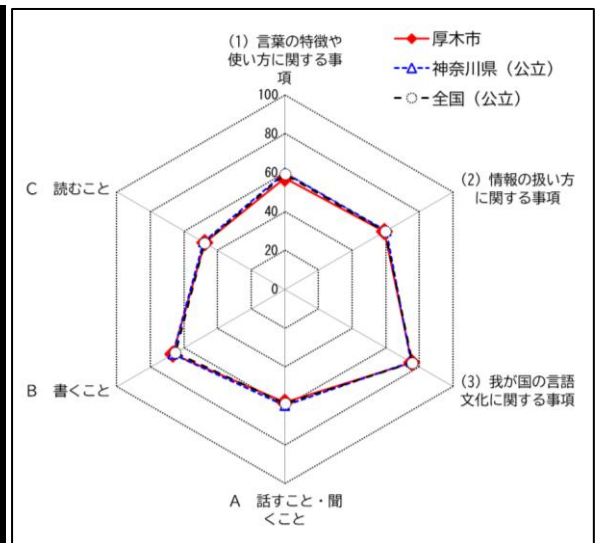
(3) 中学校 国語の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の内容】

(単位：%)

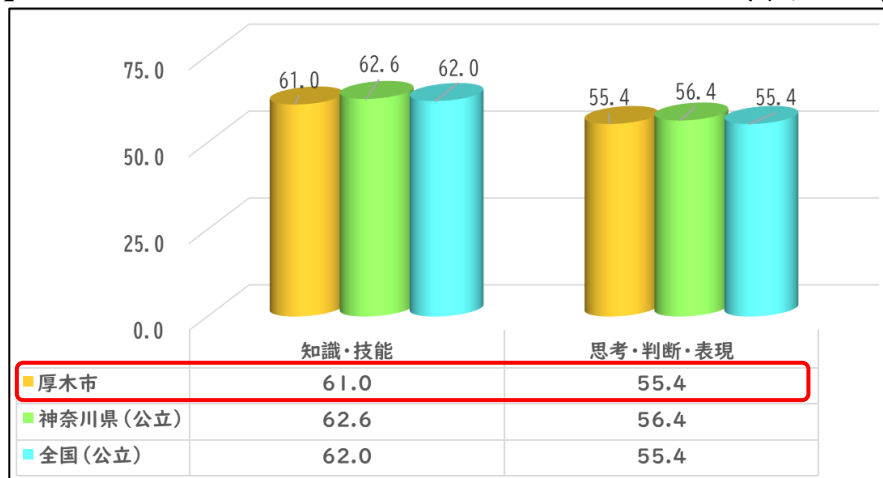
分 類	学習指導要領の内容					
	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等		
区 分	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
厚木市	57.3	59.3	75.5	58.1	66.6	47.8
神奈川県(公立)	60.0	60.3	74.8	59.9	66.8	48.5
全国(公立)	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9

(単位：%)



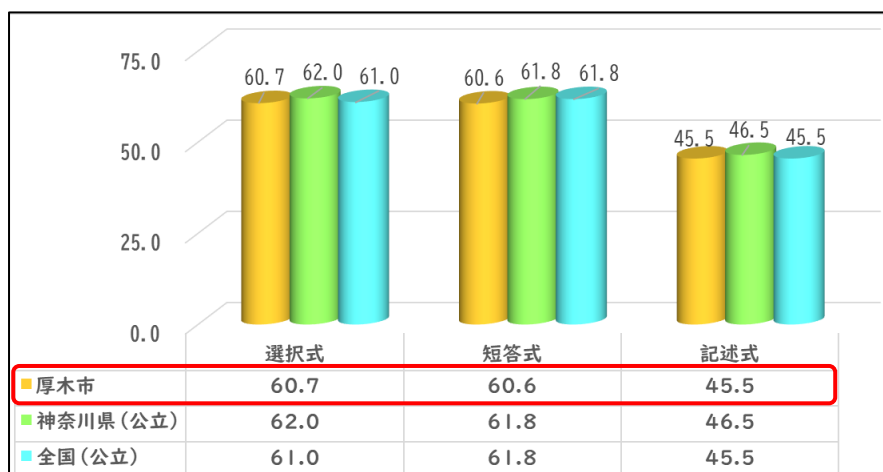
【評価の観点】

(単位：%)



【問題形式】

(単位：%)



【問題例】

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

2 説明的な文章を読む(「葉の形」) 設問一

〔出題の趣旨〕

文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	35.1%	35.7%	36.3%	-1.2

4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。

2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。

1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。



図 さまざまな形の葉

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一口に植物といっても、世の中には多種多様なものがあります。木でも草でもよいのですが、そのなかから好きなものを片端から思い浮かべて、それぞれの葉の形を一言で表してみてください。どのような言葉があがってくるでしょうか。

「楕円形の」「薄い」「先のとがった」「平べったい」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「厚ぼったい」「針のよう」「手のひらのような」……。それこそさまざまな形容があるでしょう(図)。

では次に、それらの言葉を2つのグループに分けるとしたら、どのように分けられるでしょうか。もちろん、言葉を2つのグループに分けるやり方はいろいろあるので、何が正解、ということはありません。自由に考えてみてください。

① 今、問題となっているのは「形」ですから、二次元的(平面的)な形容と、三次元的な(厚み方向の)形容に分けることはできそうです。つまり、先ほど挙げた例であれば、「楕円形の」「先のとがった」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「針のよう」「手のひらのような」は平面の形の形容で、「薄い」「平べったい」「厚ぼったい」は厚み方向の形容です。こうして見ると、平面的な形容のほうは数多くてバラエティーに富んでいるのに対して、厚み方向の形容は、きわめて限定されている感じがします。しかも、「薄い」と「厚ぼったい」という正反対の言葉が入っているのが気になります。

しかし、考えてみると、誰も「サイコロが厚ぼったい」とは言いません。「厚ぼったい」も「薄い」も、平たい物質の形容であって、その形の本質は「平たい」ことにあるわけです。平たいもののなかには、平均的なものより厚めなもの、薄めなものがある、その程度の差が形容の差を生み出しているのです。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

説明的な文章に掲載されている図表や写真が、文章のどの部分と関連しているのかを確認し、書き手の伝えたい内容を正確に読み取ることに引き続き課題があると考えられます。

令和5年度調査から改善の状況にあると考えられる問題

2 説明的な文章を読む(「葉の形」) 設問二

〔出題の趣旨〕

具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	77.0%	76.3%	75.2%	+1.8

2 — 線部①と — 線部②の関係の説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 — 線部②で、線部①の内容を抽象的に言い換えている。

2 — 線部②で、線部①の内容を具体的に言い換えている。

3 — 線部②で、線部①の内容についての推測を述べている。

4 — 線部②で、線部①の内容についての意見を述べている。

(正答) 2

2 次の方の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一口に植物といっても、世の中には多種多様なものがあります。木でも草でもよいのですが、そのなかから好きなものを片端から思い浮かべて、それぞれの葉の形を一言で表してみてください。どのような言葉があがってくるでしょうか。

「楕円形」の「薄い」「先のとがった」「平べったい」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「厚ぼったい」「針のよう」「手のひらのような」……。それこそさまざまな形容があるでしょう(図)。

では次に、これらの言葉を2つのグループに分けるとしたら、どのように分けられるでしょうか。もちろん、言葉を2つのグループに分けるやり方はいろいろあるので、何が正解、ということはありません。自由に考えてみてください。

① 今、問題となっているのは「形」ですから、二次元的(平面的)な形容と、三次元的な(厚み方向の)形容に分けることはできそうです。つまり、先ほど挙げた例であれば、「楕円形の」「先のとがった」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「針のよう」「手のひらのような」は平面の形の形容で、「薄い」「平べったい」「厚ぼったい」は厚み方向の形容です。こうして見ると、平面的な形容のほうは数多くてバラエティーに富んでいるのに対して、厚み方向の形容は、きわめて限定されている感じがします。しかも、「薄い」と「厚ぼったい」という正反対の言葉が入っているのが気になります。

しかし、考えてみると、誰も「サイコロが厚ぼったい」とは言いません。「厚ぼったい」も「薄い」も、平たい物質の形容であって、その形の本質は「平たい」ことにあるわけです。平たいもののなかには、平均的なものより厚いもの、薄いものがある、その程度の差が形容の差を生み出しているのでしょう。

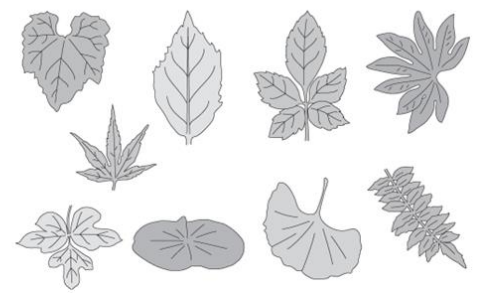


図 さまざまな形の葉

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

具体と抽象など情報と情報との関係を理解することについては、問題形式等の違いを考慮する必要はありますが、改善の状況にあると考えられます。

(令和5年度中学校国語 3 三 平均正答率 62.9%)

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

3 物語を創作する(「紙の辞書」) 設問一

〔出題の趣旨〕

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	81.7%	82.8%	81.4%	+0.3

1 物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちがいより明確に伝わるようにするため。

2 物語の読み手に、紙の辞書よりもオンライン辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため。

3 物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさがより明確に伝わるようにするため。

4 物語の読み手に、紙の辞書の引き方が難しく困ったことがより明確に伝わるようにするため。

(正答) 3

3 佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた「フートの一部」と「物語の下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(フートの一部) 及び「物語の下書き」の1から4は、場面の番号を表します。

「フートの一部」

〈登場人物の設定〉

・「僕」……紙の辞書。語り手。

・「君」……紙の辞書の持ち主(中学生)。

〈もとにする体験〉

・小学生のとき、紙の辞書を親に買ってもらった。

・使い始めた頃、紙の辞書の引き方が難しく困った。

・最近ではオンライン辞書ばかり使っている。

・紙の辞書を久しぶりに使った。

〈物語を通して伝えたいこと〉

紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。

〈各場面では伝えたい「僕」の心情〉

1 出番のない寂しさ。

2 忘れられるかもしれない不安。

3 久しぶりの出番で感じた喜び。

4 次の出番への期待。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

物語を創作する場面において、目的や意図に応じて集めた材料を整理し、自分が伝えたいことを明確にすることができる生徒が多いと考えられます。

全国の平均正答率との差が最も大きい問題

3 物語を創作する(「紙の辞書」) 設問三

〔出題の趣旨〕

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	65.4%	66.0%	68.8%	-3.4

三 「みちたりた」の――線部のひらがなを漢字に直し、楷書でいいねいに書きなさい。

(正答) 満(ち)足(り)た

【物語の下書き】

① あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた、ほこりだらけになりながら。中学生になってから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたリ、書き込みをしたりしてくれたのに。君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。

② インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれるし、かさばらないし。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。

③ そう考えていたとき、君は僕を手にとった。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はほこりで大きくしゃみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、何度かページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。調べなければならない言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君。意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君はみちたりた表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。

④ あの日から数日が過ぎた。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

文脈に即して言葉の意味を捉え、漢字を正しく書くことに課題があります。

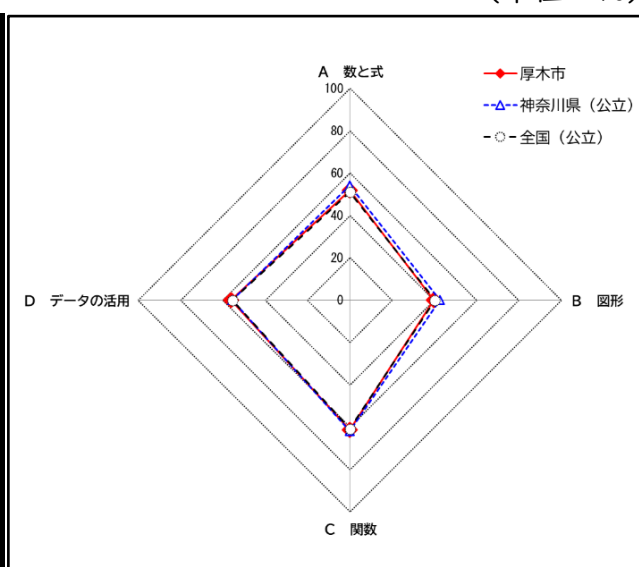
(4) 中学校 数学の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の領域】

(単位：%)

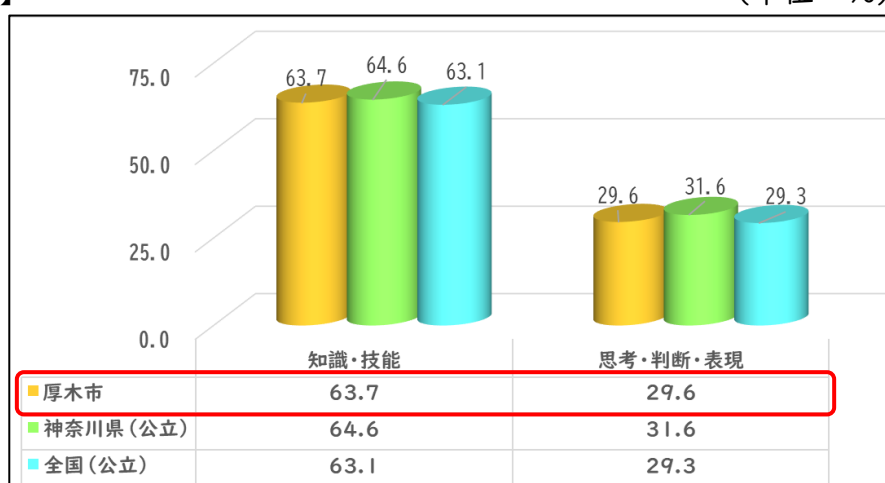
(単位：%)

分 類	学習指導要領の領域			
区 分	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
厚木市	52.0	39.8	61.4	56.1
神奈川県 (公立)	54.3	42.5	61.8	55.6
全国(公立)	51.1	40.3	60.7	55.5



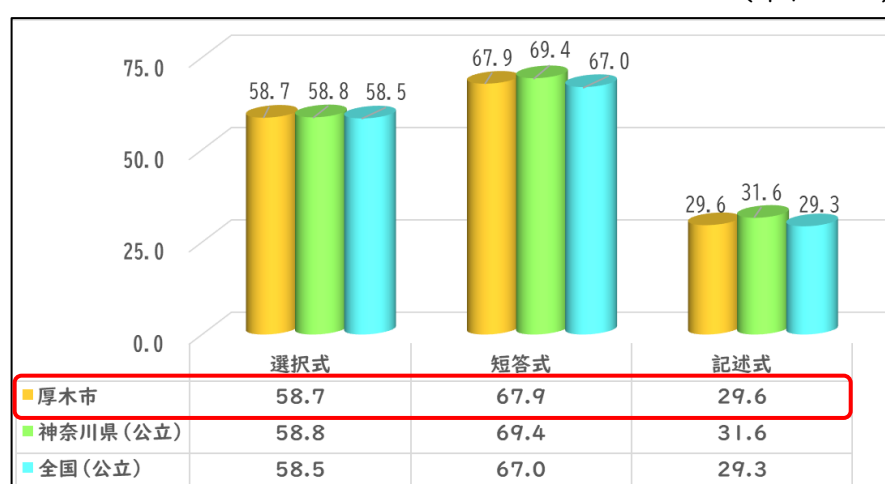
【評価の観点】

(単位：%)



【問題形式】

(単位：%)



【問題例】

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

6 構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察すること（頂点の数の和） 設問（1）

〔出題の趣旨〕

問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

A 数と式

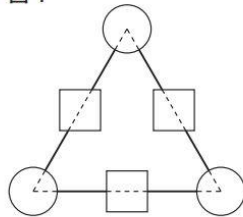
〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	89.6%	90.8%	90.2%	-0.6

6 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つずつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。

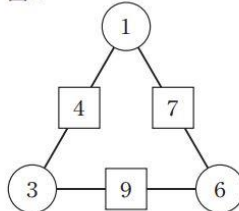
図1



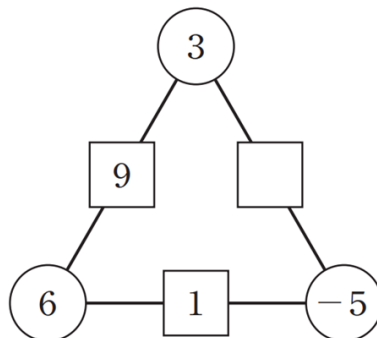
計算の例

3つの○に1、3、6を入れたと
3つの□にはそれぞれ
 $1+3$ 、 $3+6$ 、 $6+1$
の計算結果が入る。
だから、3つの□には4、9、7
が入る。

図2



（1）下の図の□に入る整数を求めなさい。



（正答）-2

問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる生徒が多いと考えられます。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

本市の平均正答率が 80%以上の問題

- 8 日常的な事象における問題について、関数の関係に着目し、構想を立て解決すること
(ストーブ) 設問(1)

〔出題の趣旨〕

二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

C 関数

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	84.9%	84.1%	83.4%	+1.5

- 8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

説明書の情報

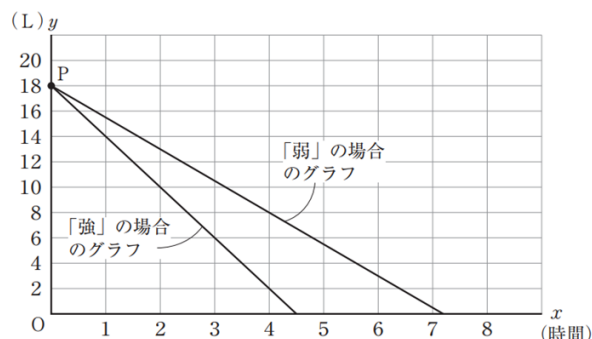
ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量

「強」の場合の式 $y = -4x + 18$
「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$



この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

- (1) ストーブの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合のグラフは、どちらも点Pで y 軸と交わっています。点Pの y 座標の値は、何を表していますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア ストーブを使用し始めるときの灯油の残量
イ ストーブを使用し始めるときの時間
ウ 「強」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量
エ 「弱」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

(正答) ア

二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができる生徒が多いと考えられます。

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

- ⑧ 日常的な事象における問題について、関数の関係に着目し、構想を立て解決すること
(ストーブ) 設問(2)

〔出題の趣旨〕

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を式やグラフを用いて説明することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

C 関数

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	17.1%	19.4%	17.1%	0.0

- ⑧ 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てるようになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

説明書の情報

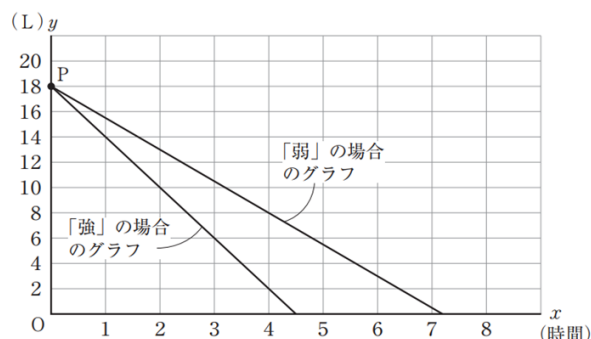
ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係調べることになりました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量

「強」の場合の式 $y = -4x + 18$
「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$



この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

(正答例)

(例) アを選択して

説明 「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。

一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに、引き続き課題があると考えられます。

(平成30年度数学B3(3)の類題の正答率13.9%)

評価の観点「知識・技能」において平均正答率が最も低い問題

9 筋道を立てて証明し、図形を考察すること(2つの正三角形) 設問(2)

〔出題の趣旨〕

事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

B 図形

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	25.1%	28.3%	26.7%	-1.6

(2) 健太さんは、線分ABの中点に点Cをとった場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ が等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。

そこで、次の図3のように、線分ABの中点をMとして、点Aから点Bの方向へ点Cを動かした場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどうなるかを調べ、下のようにまとめました。

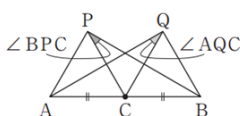
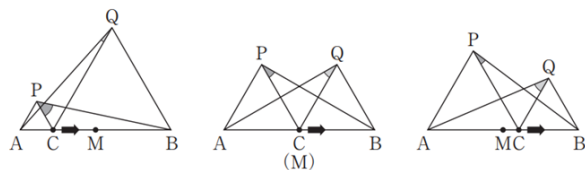


図3



調べたこと

- 点Cが点Aから点Bに近づくにつれて、 $\angle AQC$ は大きくなり、 $\angle BPC$ は小さくなる。
- 点Cが線分ABの中点のとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° である。

健太さんは、前ページの調べたことから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について何かいえることがないか考えています。

このとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について、次のことがいえます。

- ◎ 点Cが点Aと中点Mの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 。
- ◎ 点Cが中点Mと点Bの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 。

上の 、 のそれぞれに当てはまるものを、下のアからエまでの中から1つずつ選びなさい。

- ア 60° より大きい
- イ 60° より小さい
- ウ 60° になる
- エ 60° より大きいことも小さいこともある

(正答) ① ウ ② ウ

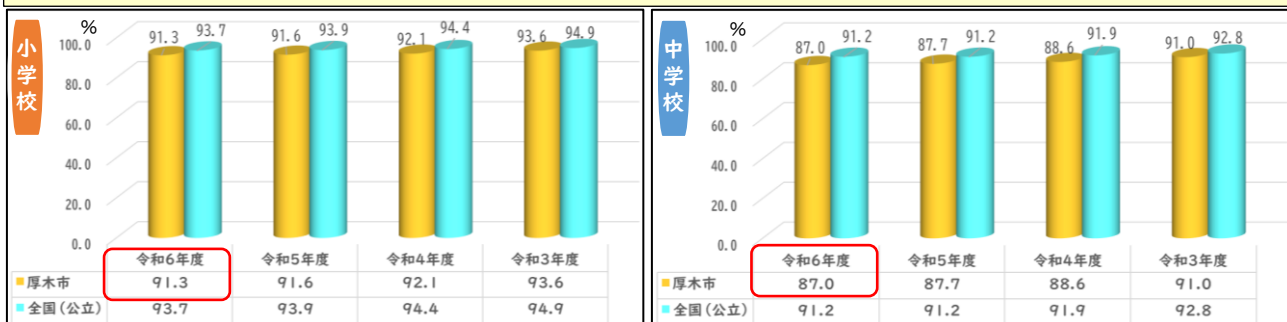
図形の性質を考える場面において、角の大きさに着目して事象を観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題があると考えられます。

この問題は、国立教育政策研究所のホームページから転載しました。

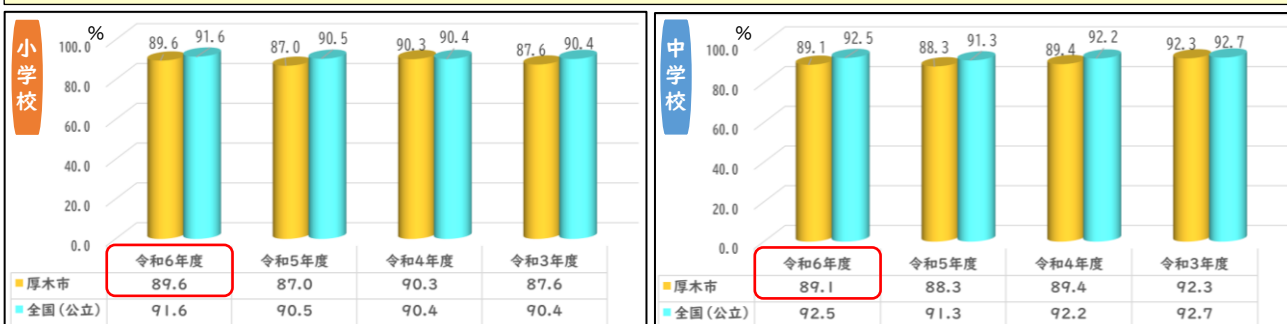
4 児童・生徒質問調査の結果

(1) 厚木市立小・中学校の児童・生徒の回答状況（85%以上の児童・生徒が回答）について
ア 基本的生活習慣等について

質問1 朝食を毎日食べている（している・どちらかといえば、している）

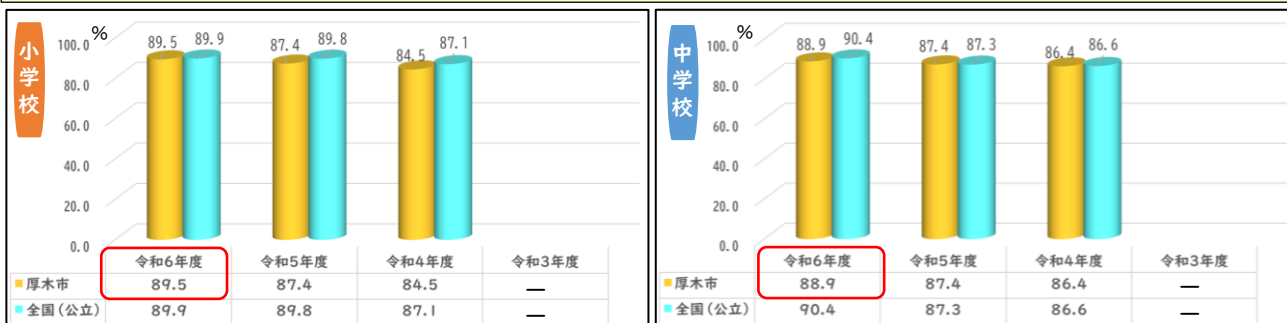


質問3 毎朝、同じくらいの時刻に起きている（している・どちらかといえば、している）

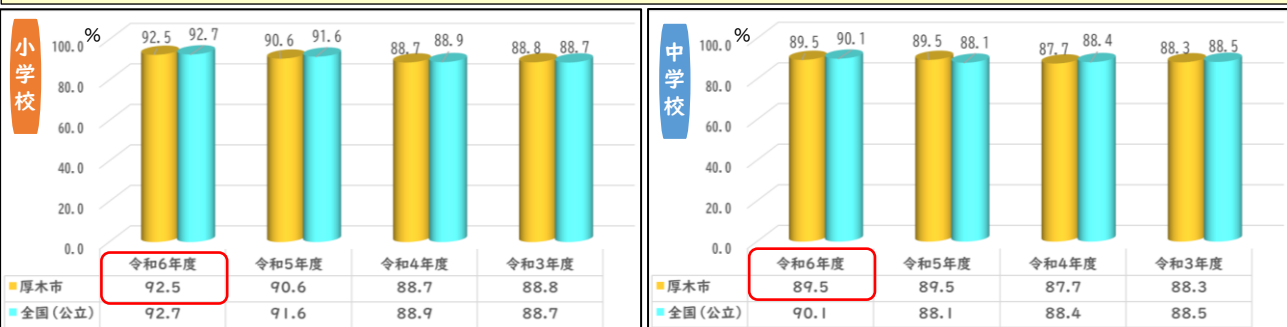


イ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

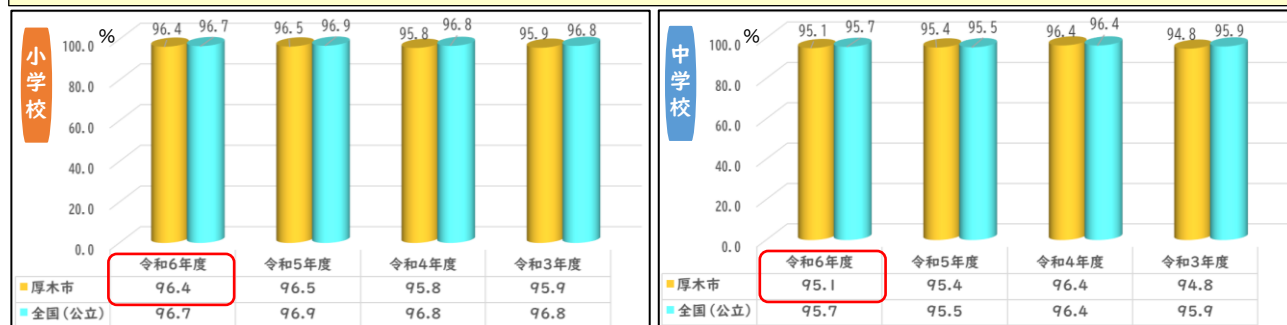
質問10 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



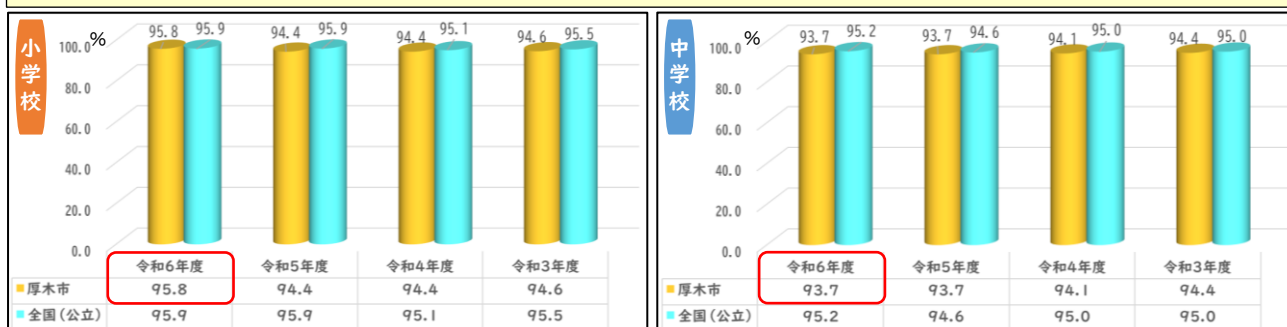
質問12 人が困っているときは、進んで助けている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



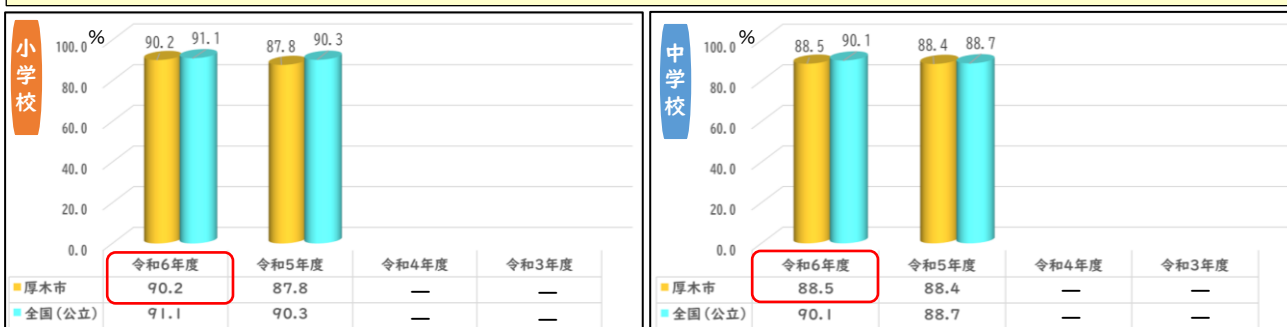
質問 13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)



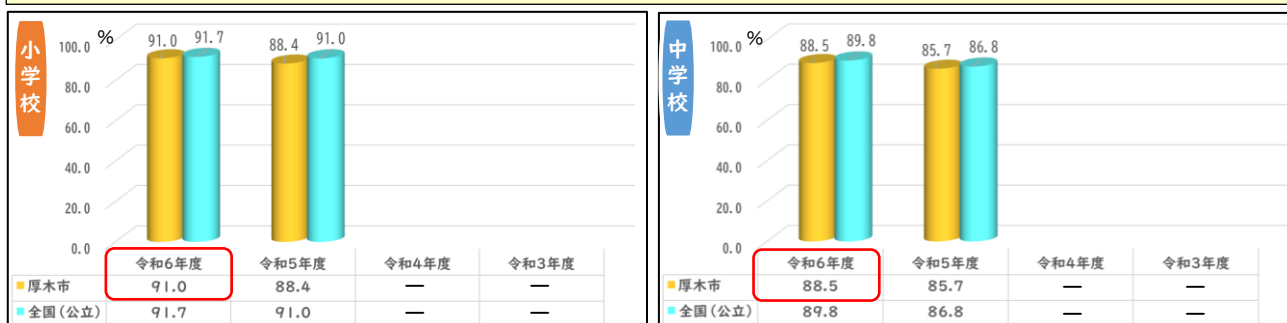
質問 15 人の役に立つ人間になりたいと思う (当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)



質問 18 友達関係に満足している (当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)

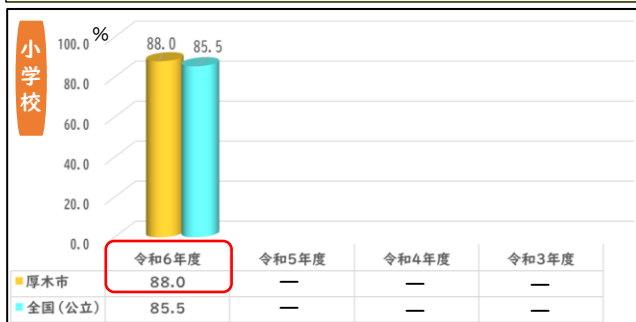


質問 19 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
(よくある・ときどきある)



ウ ICT を活用した学習状況について

質問 28-1 ICT 機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる
(とてもそう思う・そう思う)



質問 28-2 ICT 機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる
(とてもそう思う・そう思う)



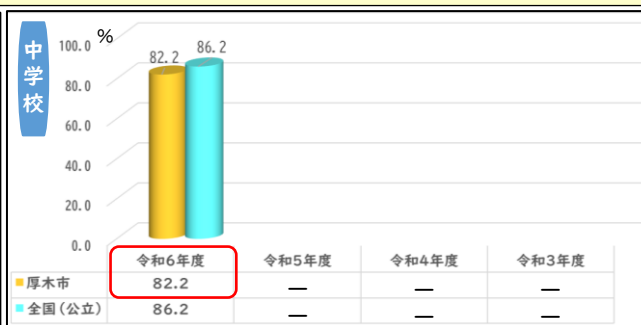
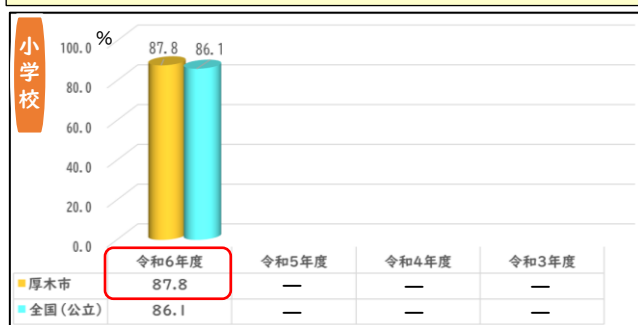
質問 28-3 ICT 機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる
(とてもそう思う・そう思う)



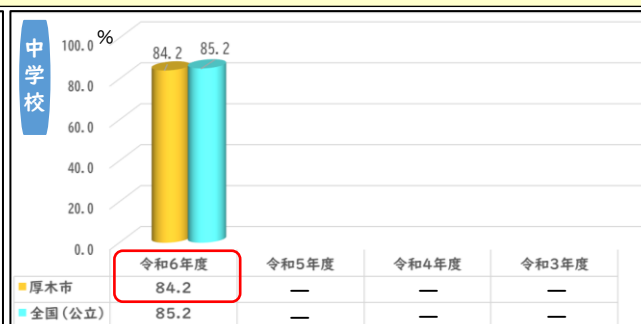
質問 28-4 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる
(とてもそう思う・そう思う)



質問 28-6 ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる
(とてもそう思う・そう思う)

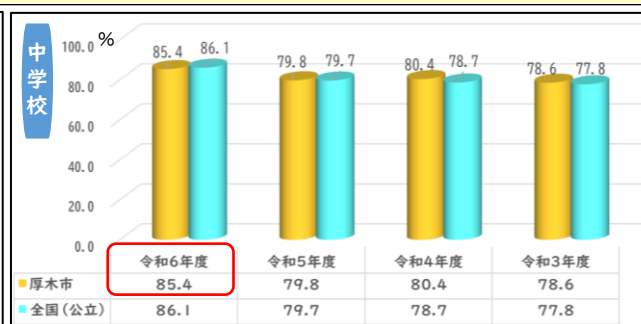
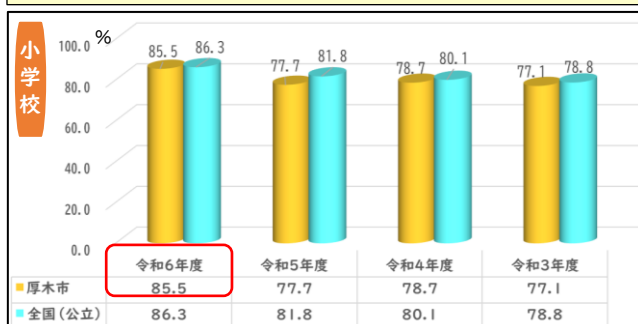


質問 28-7 ICT 機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる
(とてもそう思う・そう思う)

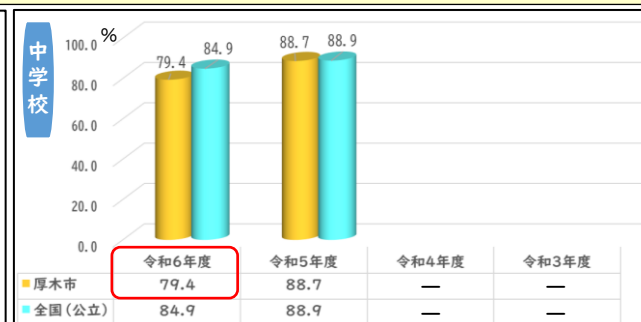
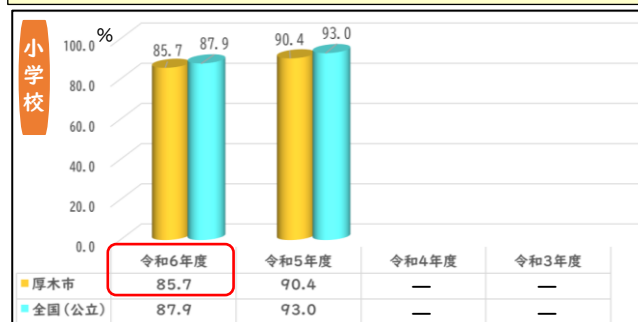


エ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

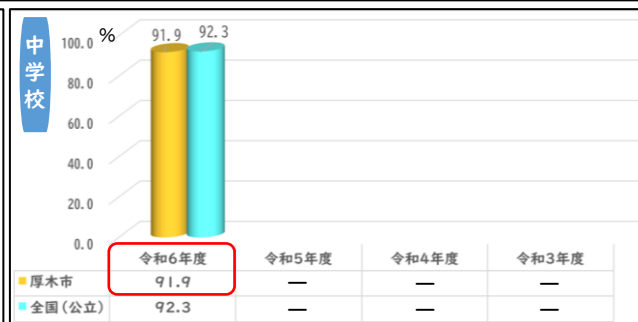
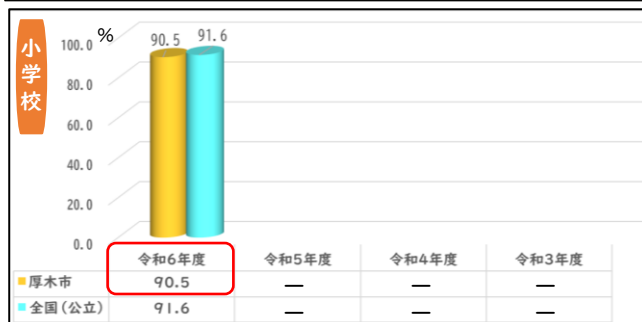
質問 33 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)



質問 36 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)

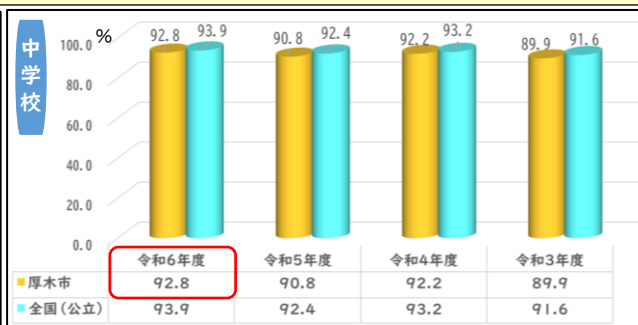
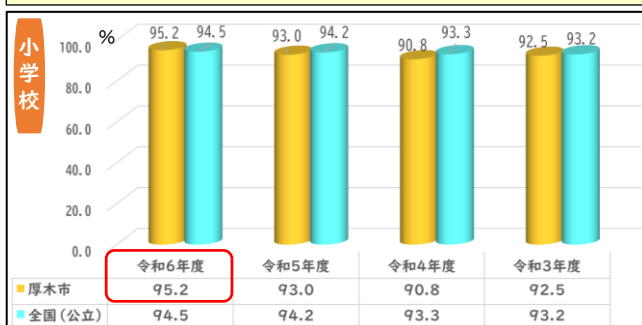


質問 37 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

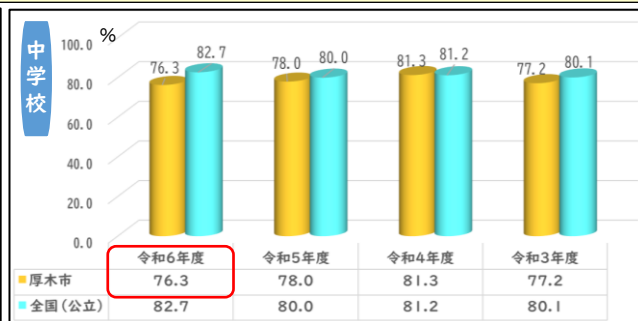
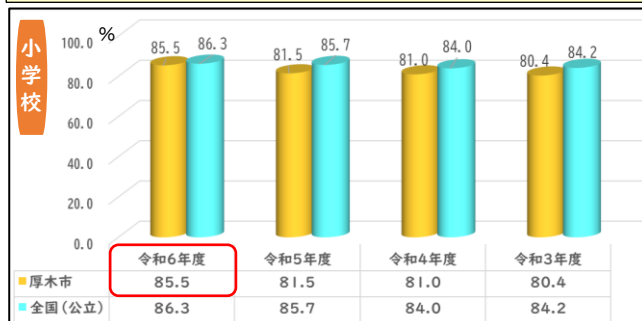


オ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等について（国語、算数・数学）

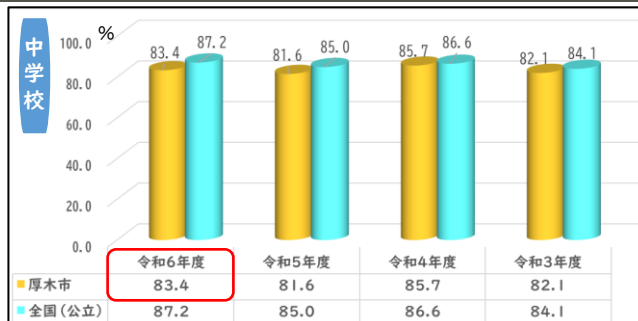
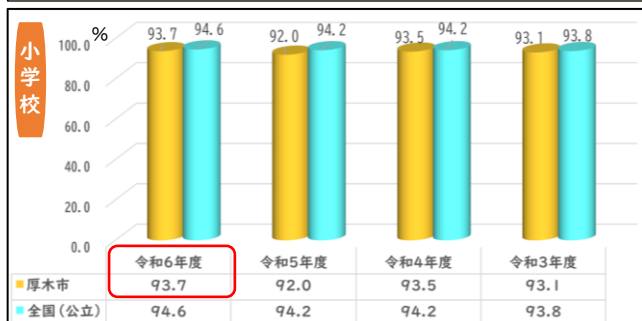
質問 43 国語の勉強は大切だ（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



質問 44 国語の授業の内容はよく分かる（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



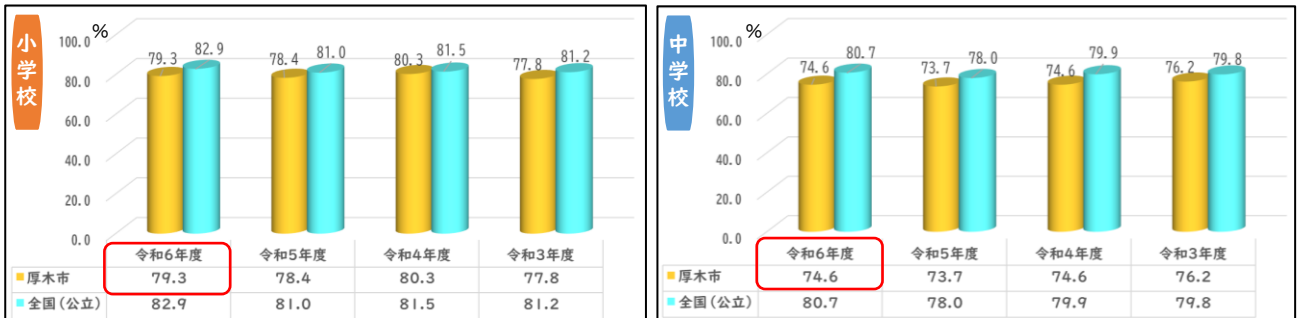
質問 51 数学の勉強は大切だ（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



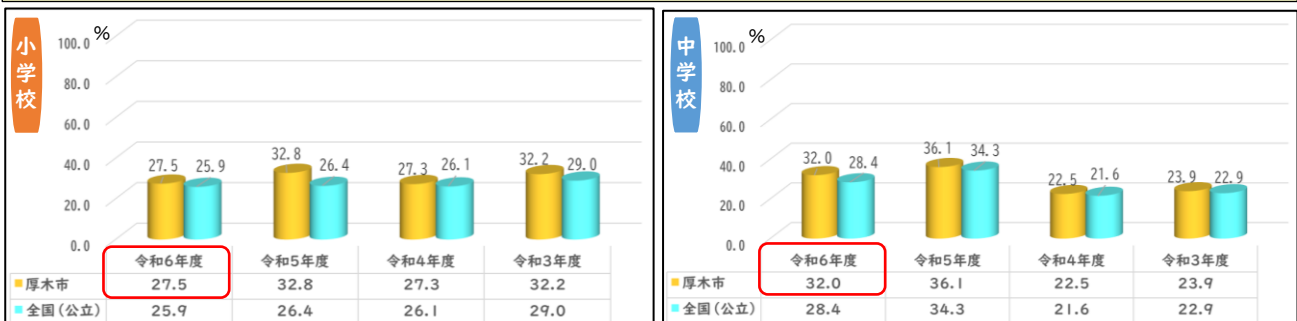
(2) その他の主な回答状況について

ア 基本的生活習慣等について

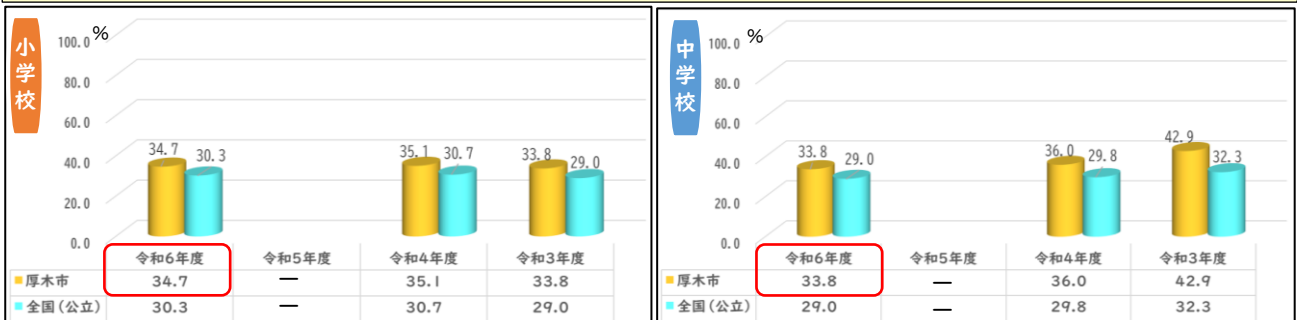
質問2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている（している・どちらかといえば、している）



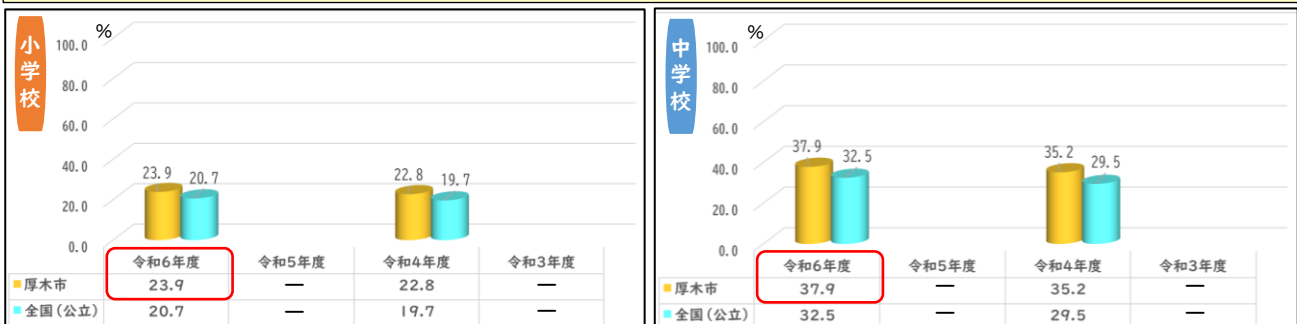
質問4 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）。（全く使っていない）



質問5 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。（3時間以上）

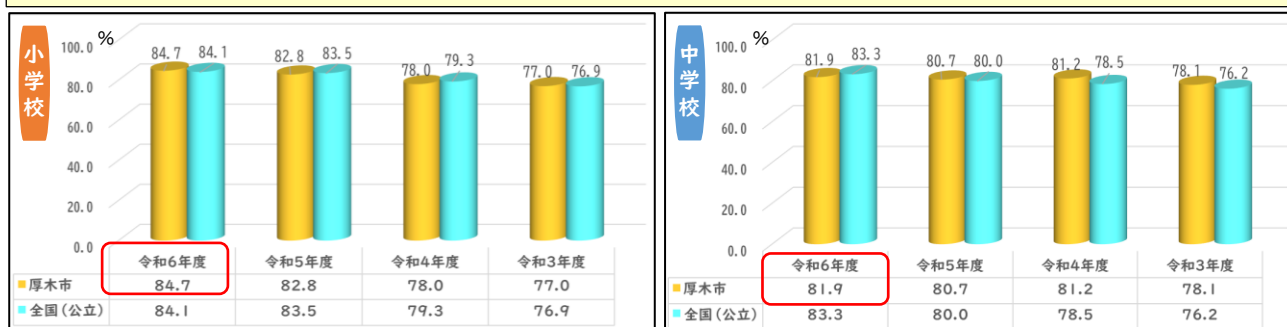


質問6 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）（3時間以上）

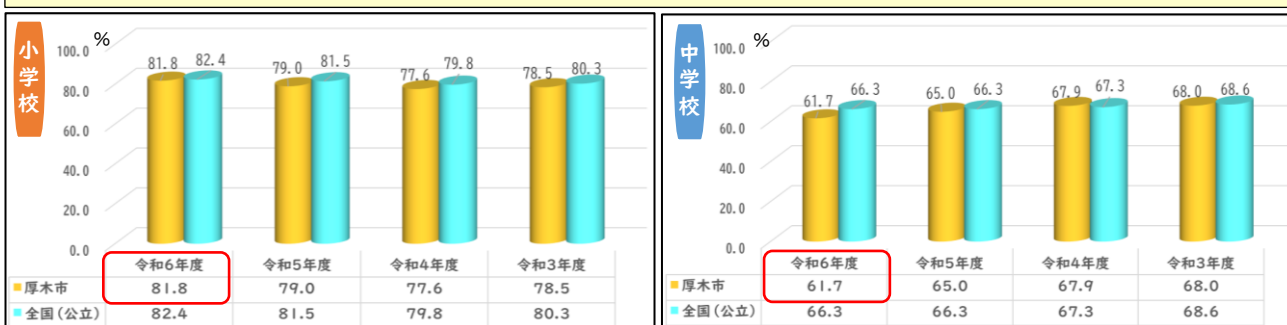


イ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

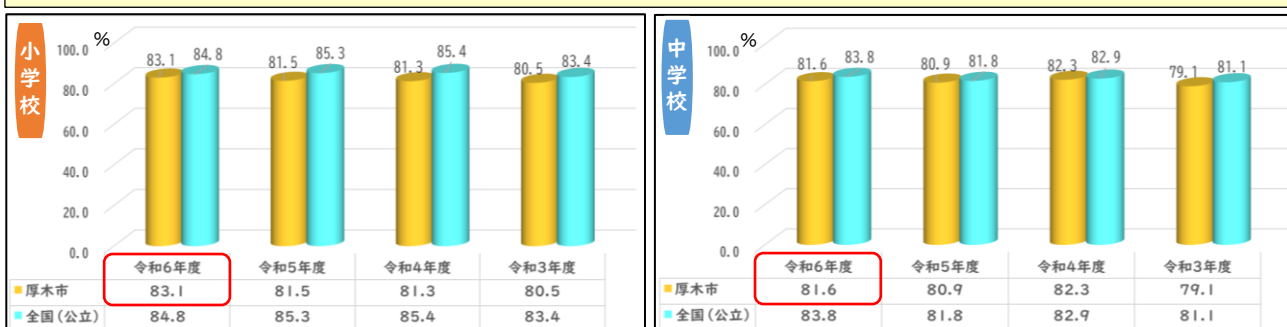
質問 9 自分には、よいところがあると思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



質問 11 将来の夢や目標を持っている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

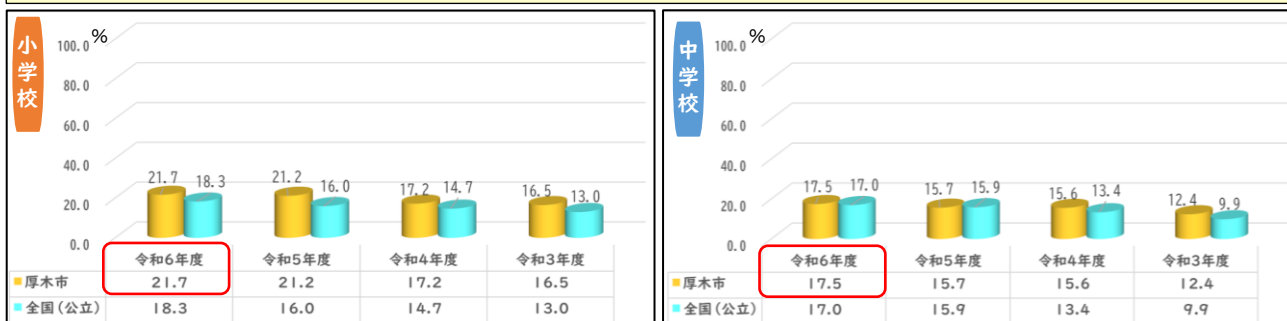


質問 16 学校に行くのは楽しいと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

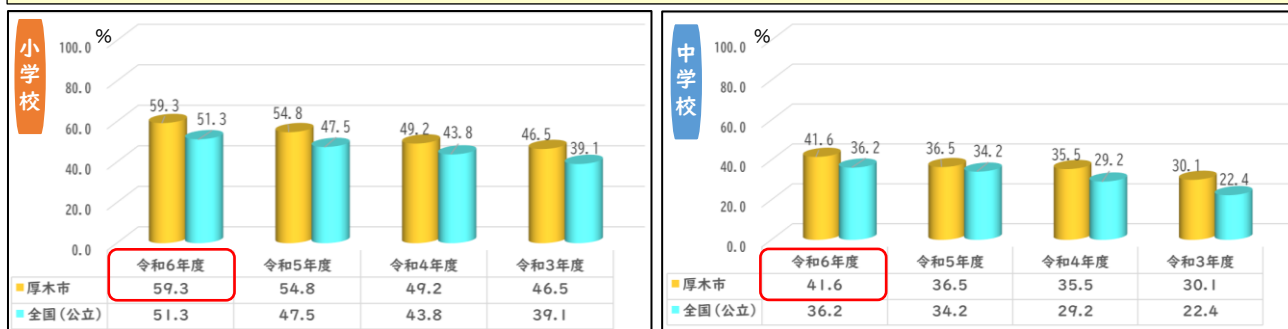


ウ 学習習慣、学習環境等について

質問 21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）。（30分未満）



質問 22 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。（1時間未満）



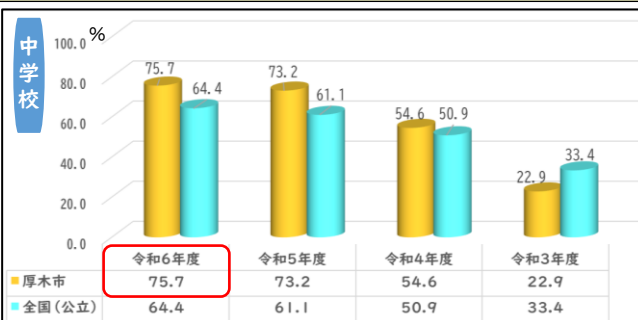
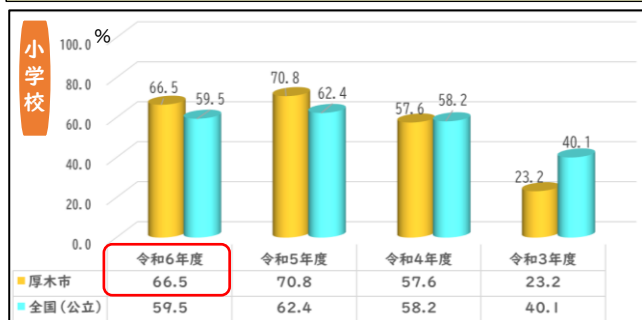
エ 地域や社会に関わる活動の状況等について

質問 26 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。【複数選択可】

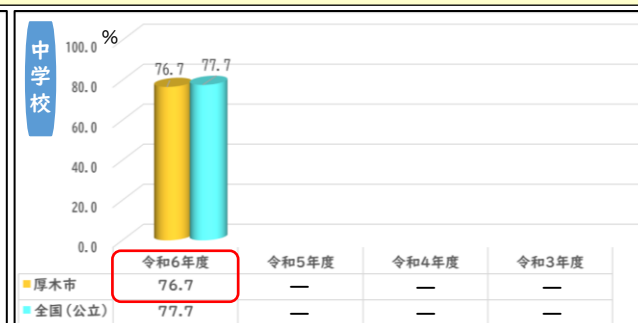
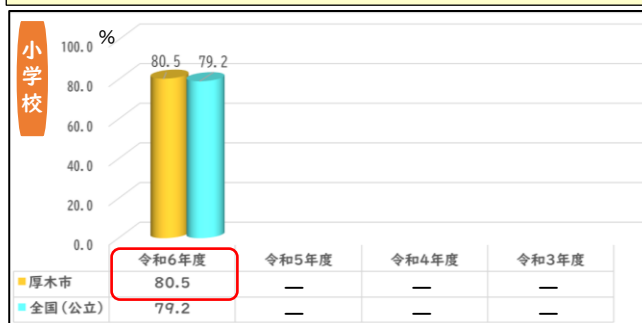


オ ICT を活用した学習状況について

質問 27 5年生までに受けた授業（中学校は、1、2年生までに受けた授業）で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。（週3回以上）

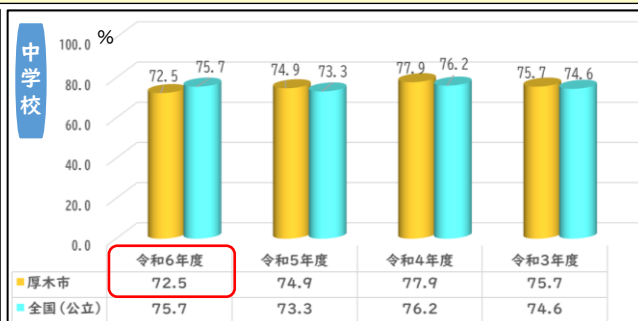
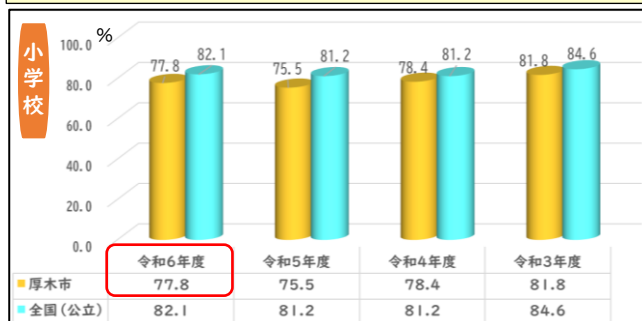


質問 28-5 ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる（とてもそう思う・そう思う）



カ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等について

質問 52 算数・数学の授業の内容はよく分かる（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



5 考察

(1) 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果について

本市の市立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られませんでした。

【参照】「2 調査結果の解釈等に関する留意事項」及び「3 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果」

		国 語	算 数
知識及び技能	小学校	○ 複数の情報を関係付ける方法や図などを通して語句同士の関係を表す方法を理解し、使うことができる児童が多いと考えられます。 ● 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があります。	○ 数量の関係を□などの記号を用いた式で表すことができる児童が多いと考えられます。 ○ 図形の見取図について理解し、かくことができる児童が多いと考えられます。 ● 除数が小数である場合の除法を計算することに課題があります。
		○ 目的や意図に応じて、集めた材料を分けたり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる児童が多いと考えられます。 ● 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題があります。	● 二つの数量の関係に着目し、道のりが等しい場合など、場面に応じて速さの比べ方を考察することに課題があります。
知識及び技能	充実・改善のヒント	□ 日常の学習の中で漢字を使って文章を書くよう働きかけたり、自分が書いた文章を読み直して漢字に直したりする活動を取り入れる。 □ 新出漢字の読み方や意味を考え、文章の中での正しい使い方を身に付ける活動を取り入れる。	□ 整数の場合の計算の意味や仕方を活用して計算できるようにするために、筆算による計算の仕方を形式的に指導するのではなく、例を通して除法の性質を活用しながら理解を深める活動を取り入れる。
		□ 内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確かめたり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同していないかを確かめたりする場面を設定する。	□ 単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、求める学習活動を取り入れる。 □ 道のりが等しい場合、かかった時間で速さを比べられることを見出し、自分の言葉で説明する場面を設定する。

国 語

数 学

知識及び技能

- 具体と抽象など情報と情報との関係を理解することについては、問題形式等の違いを考慮する必要がありますが、改善の状況にあると考えられます。
- 文脈に即して言葉の意味を捉え、漢字を正しく書くことに課題があります。

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる生徒が多いと考えられます。
- 図形の性質を考える場面において、角の大きさに着目して事象を観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題があると考えられます。

中学校

思考力、判断力、表現力等

- 物語を創作する場面において、目的や意図に応じて集めた材料を整理し、自分が伝えたいことを明確にすることができる生徒が多いと考えられます。
- 説明的な文章に掲載されている図表や写真が、文章のどの部分と関連しているのかを確認し、書き手の伝えたい内容を正確に読み取ることに引き続き課題があると考えられます。

- 一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに、引き続き課題があると考えられます。

知識及び技能

- 身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げて、それぞれの概念と実際の事柄とを結び付けて理解する学習活動を取り入れる。
- 日常の学習の中で漢字を使って文章を書くよう働きかけたり、自分が書いた文章を読み直して漢字に直したりする活動を取り入れる。

- 図形の性質を考察する場面において、観察や操作、実験などを通して、成り立つと予想される事柄を見だし、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現する活動を取り入れる。
- ICTを用いて図形を操作し、成り立つと予想される図形の性質を見いだす活動を取り入れる。

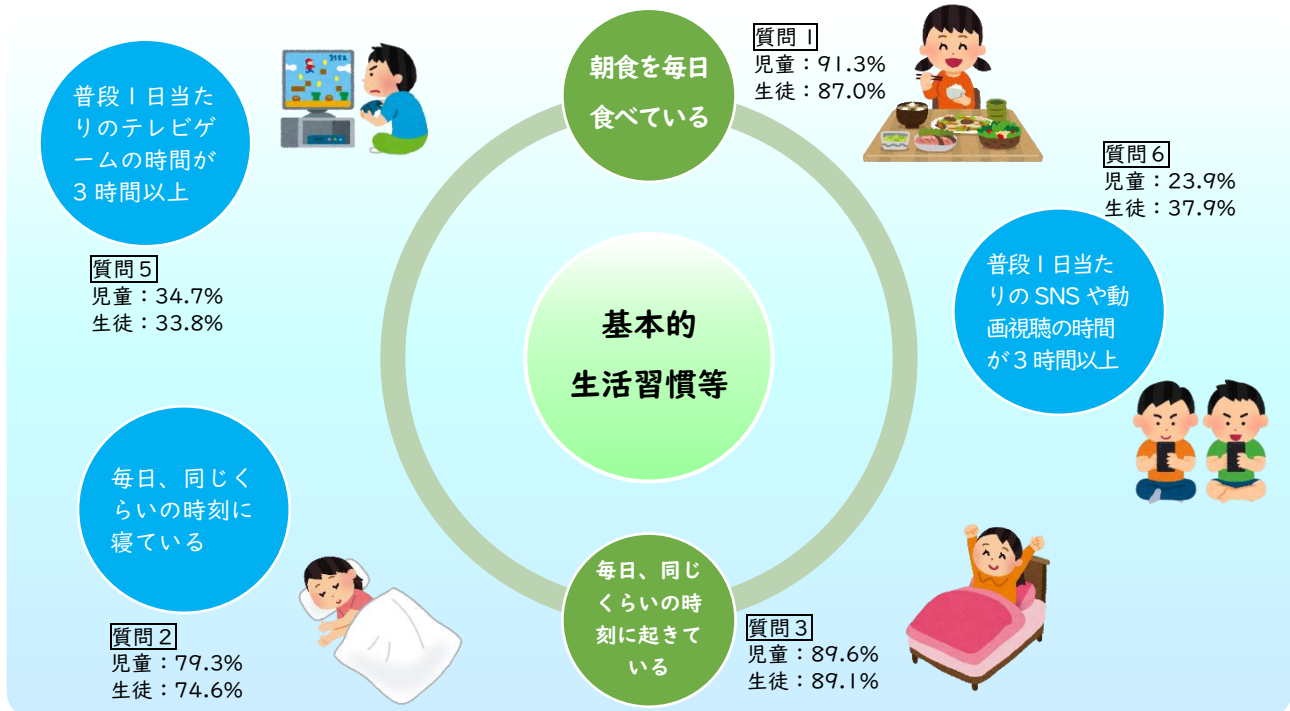
充実・改善のヒント

思考力、判断力、表現力等

- 図表や写真等を含む説明的な文章を読む際には、示されている図表等が、文章のどの部分と関連しているのかを確認する活動を取り入れる。
- 図表等が文章中にある場合とない場合とを比較し、図表等の効果を考えることを通して、筆者が図表を用いた意図を考える活動を取り入れる。

- 問題解決のために式やグラフをどのように用いればよいのか説明する活動を取り入れる。

(2) 児童・生徒質問調査の結果について

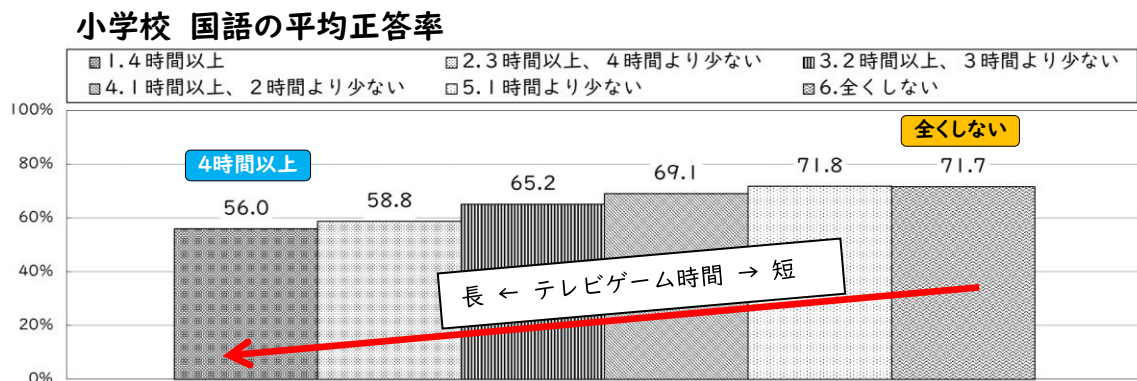


【生涯にわたり健康で活力ある生活を送る力】

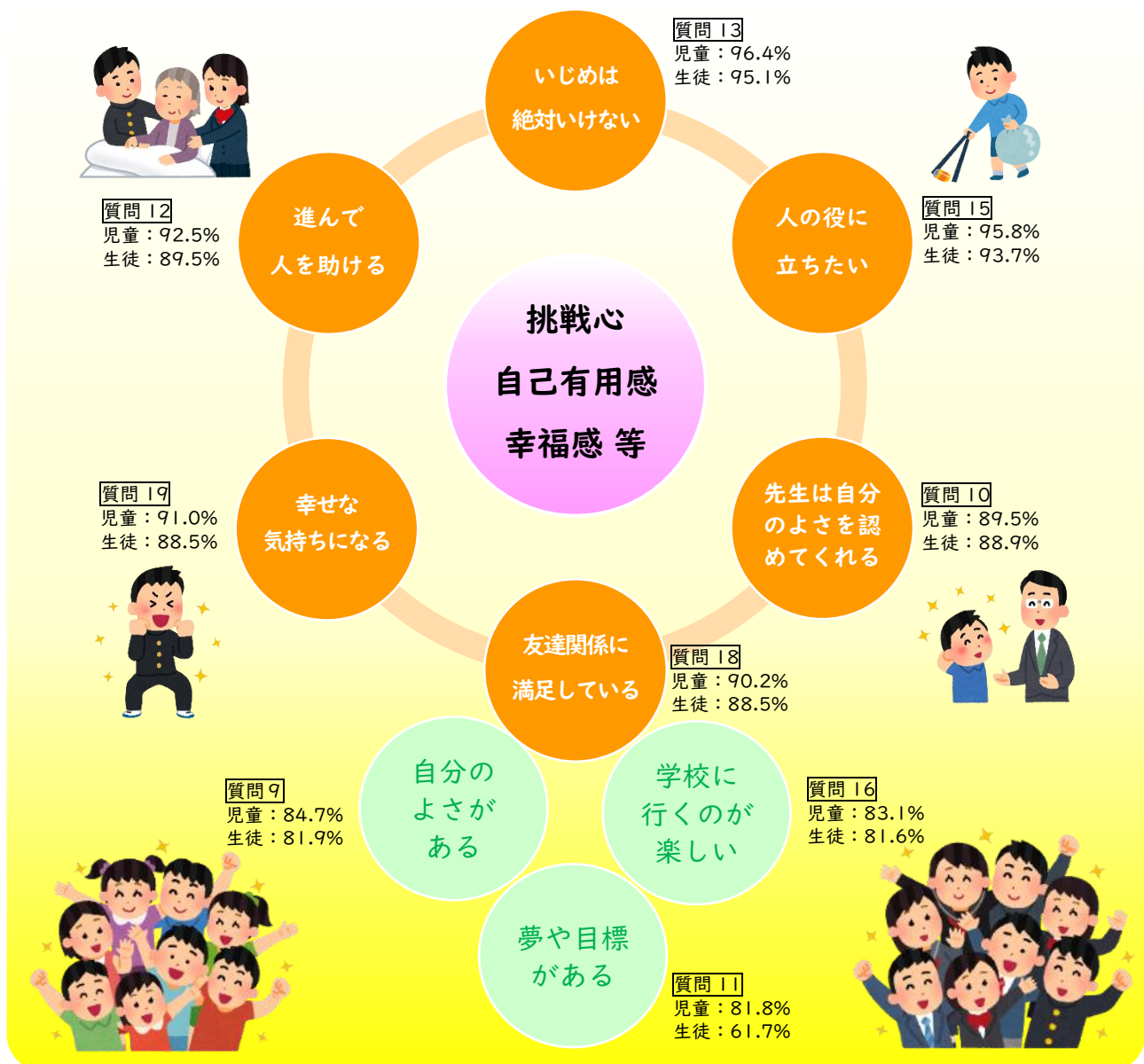
本市では、多くの児童・生徒が、家庭の支えを得ながら、毎日、ほぼ決まった時刻に起き、朝食を食べるという規則正しい生活を送っていると考えられます。

一方で、毎日、同じ時刻に寝ている児童・生徒の回答率は、昨年度に比べて増加していますが、引き続き全国の回答率よりも低い値となっています。また、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をすると回答した児童・生徒の割合は（28ページの質問5参照）、小学校34.7%、中学校33.8%であり、小学校の方が高い回答率となっています。さらに、これらの数値は、引き続き全国平均よりも高い値となっています。児童・生徒質問調査と教科に関する調査のクロス集計から、テレビゲームの時間が長いほど、教科の平均正答率が低くなる傾向があることが分かります。

質問5 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。



子どもたちが生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることができる力を身に付けるためには、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることや、自らの健康状態を把握し、基本的な生活習慣を定着させることが大切であると考えられます。そして、この実現には、家庭の支えがとても重要になると言えます。

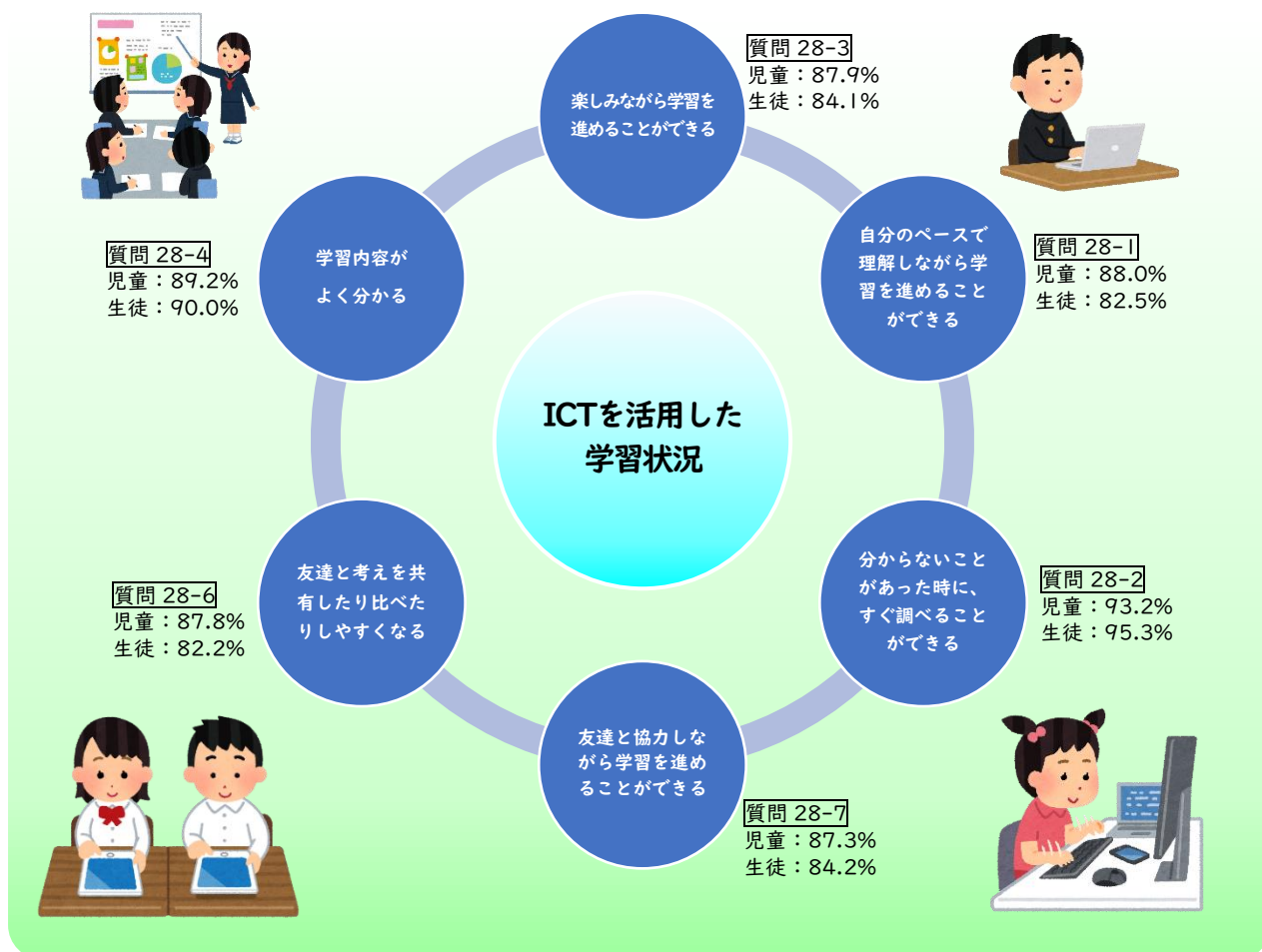


【自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力】

本市では、自尊感情が育まれるような学級・学校環境の中で学校生活を送る児童・生徒が多いと考えられます。また、お互いのよさを認め合い、支え合う人間関係づくりが進んでいると考えられます。

今後も、人間尊重の精神を基盤として、全ての教育活動を通して、児童・生徒の発達の段階に応じた人権教育の充実を図り、あらゆる立場の人がお互いにかげがえのない人として尊重し合い、多様性を認め合える児童・生徒の育成が求められます。

また、変化の激しいこれからの社会において、一人一人の子どもたちが安心して自分の可能性を伸ばし、自立した個人として心豊かにたくましく生き抜いていく基礎を培うことが重要となります。そのために、家庭での会話を通して、子どもが自分に自信を持ち、多様な課題に対して前向きな気持ちで取り組むことができるよう、子どもが持っている個性やよさ、頑張りなどを認め、子どもの自己有用感を高められるような関わりの積み重ねが引き続き求められます。



【ICT 機器の積極的な活用】

ICT 機器の活用回数（週3回以上に回答）についての質問（質問 27）では、小学校（5年生までに受けた授業）及び中学校（1、2年生までに受けた授業）ともに全国平均を上回っており、日々の授業の中で児童・生徒が ICT 機器を活用している様子が見えてきます。特に、中学校では活用回数が年々増加傾向にあります。

【ICT と児童・生徒との関係性】

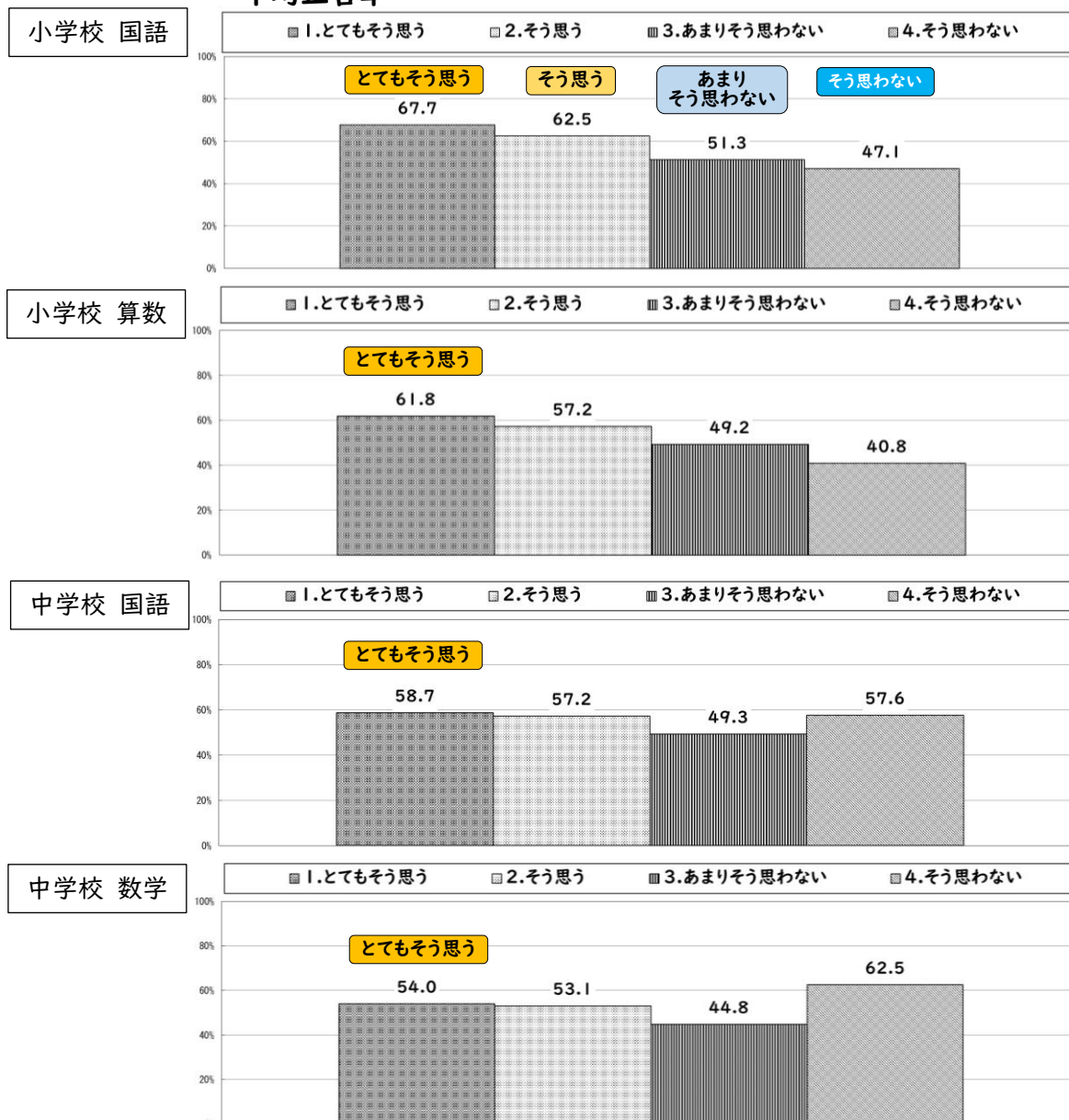
多くの児童・生徒は、学習の中で ICT 機器を活用することについて肯定的に受け止めている様子が見えてきます。

小学校においては、児童が授業のめあてを達成させるための“学習支援ツール”として活用されており、ICT 機器の活用が資質・能力の育成に直接寄与するものと考えられます。

中学校においては、いつでも、どこでも、必要な時に使える筆記用具や辞書、カメラ、コミュニケーションツール、集計・分析ツールなどの“道具”として利用され、この道具を通して集めた情報の活用が生徒の資質・能力の育成に寄与するものと考えられます。したがって、集めた情報を整理、分析することを通して自分の考えを明らかにし、文章等で分かりやすく表現する学習活動を意図的、計画的に設定することが資質・能力の育成にとって重要になると考えられます。

質問 28-2 5年生(1、2年生)までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。
(2) 分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。

平均正答率



小学校においては、肯定的な回答をしている児童ほど、国語及び算数の平均正答率が高いことが分かります。一方で、中学校においては、小学校のような関係性が弱いことが分かります。

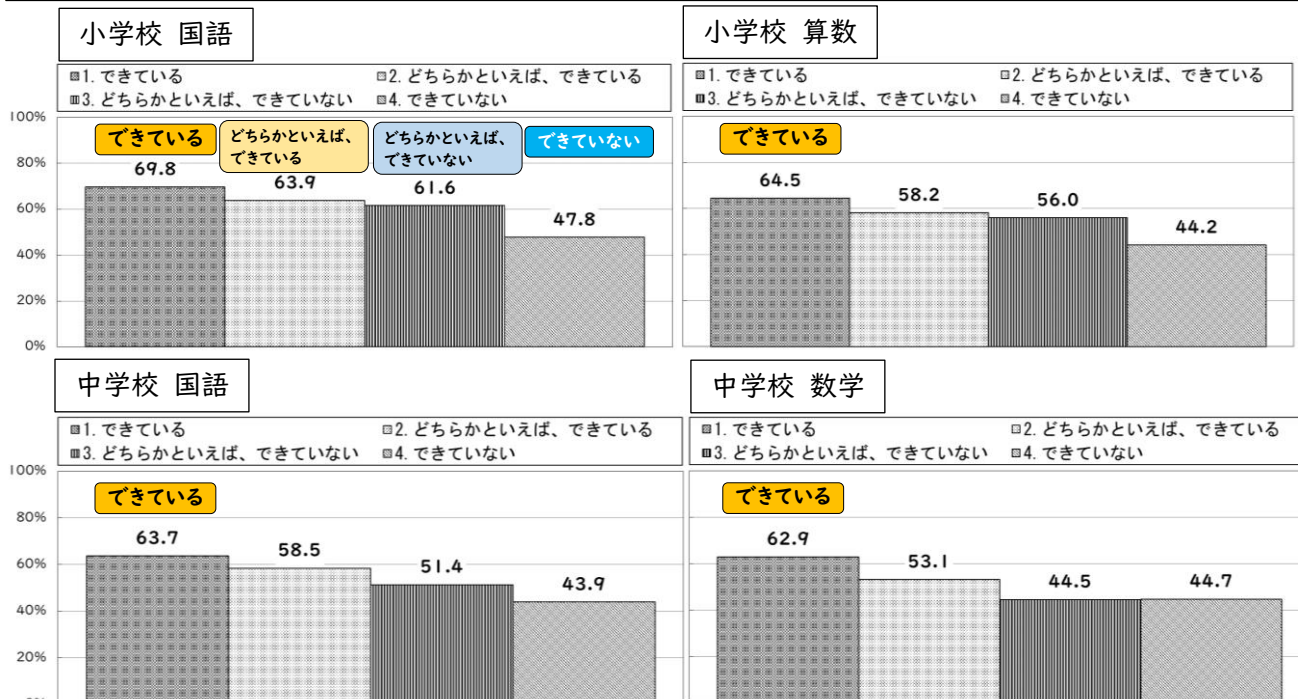
6 あつぎの学びの充実・改善のヒント

【児童・生徒質問と教科（国語、算数・数学）の平均正答率とのクロス集計分析結果より】

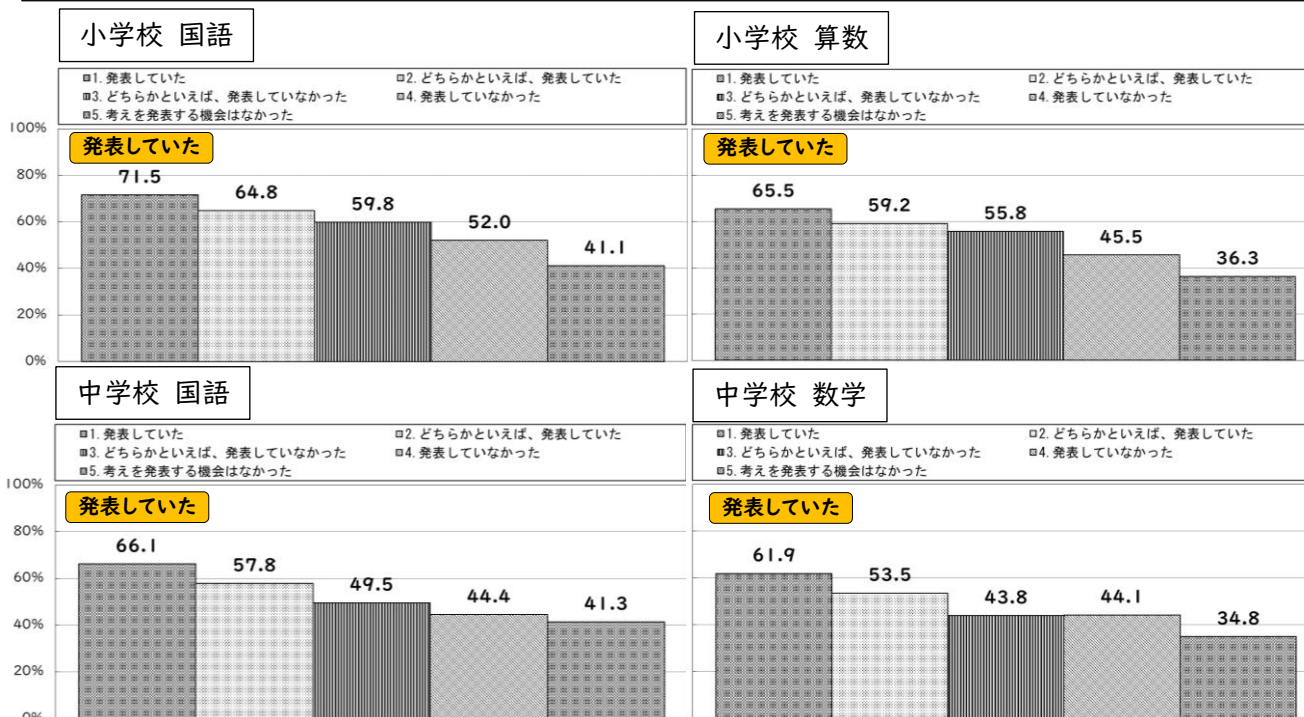
クロス集計は、相関関係（※）がみられるかを分析したものであり、因果関係を示したものではありません。

※ 2つの項目の間の何らかの関係性のことをいいます。

質問 20 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

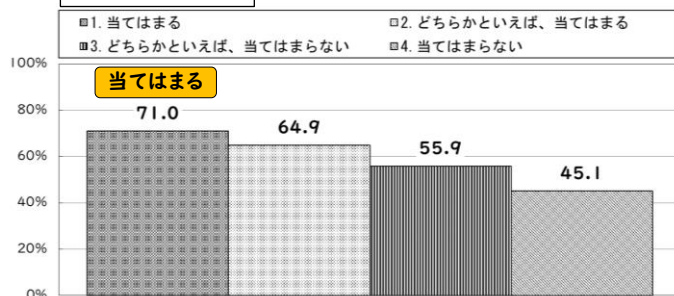


質問 29 5年生（1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

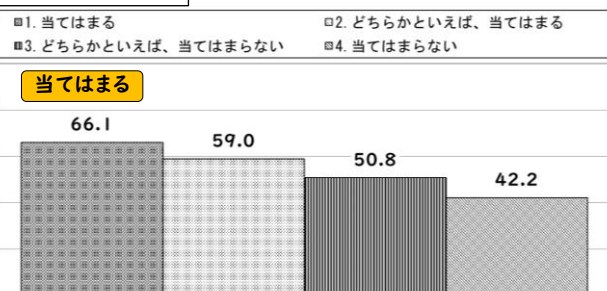


質問 30 5年生（1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

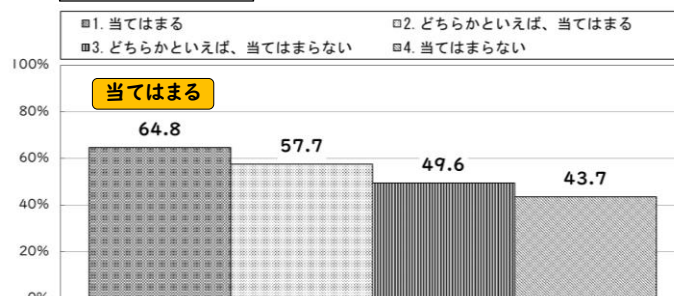
小学校 国語



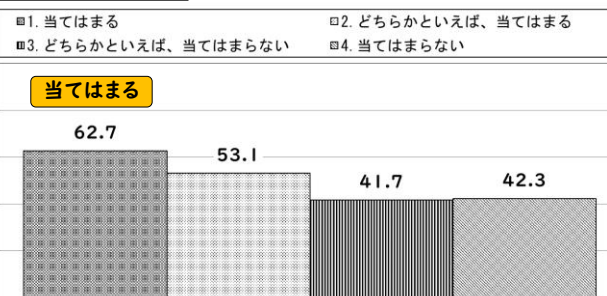
小学校 算数



中学校 国語

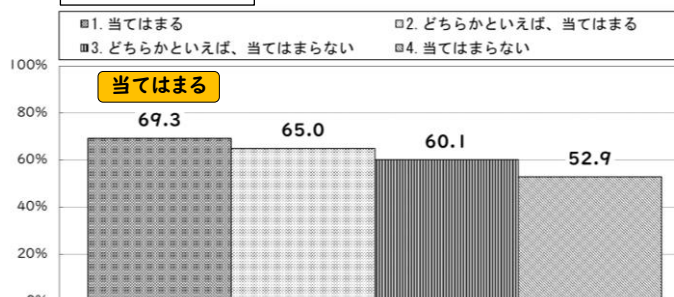


中学校 数学

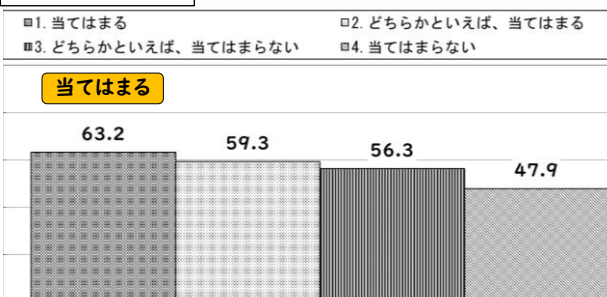


質問 34 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

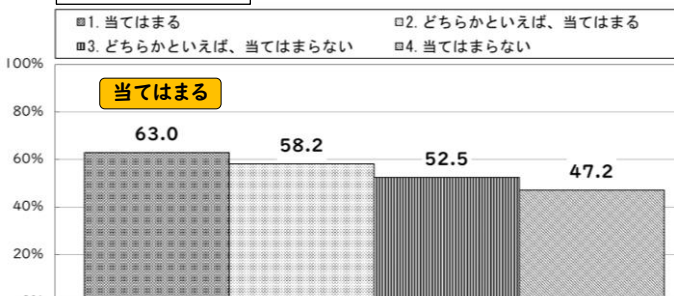
小学校 国語



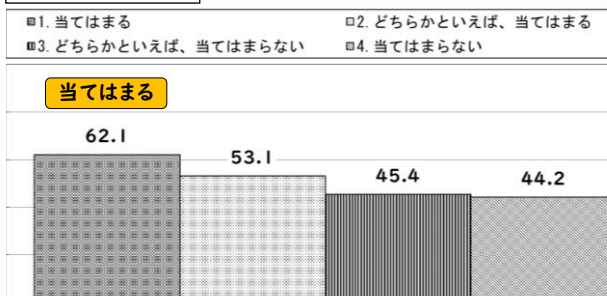
小学校 算数



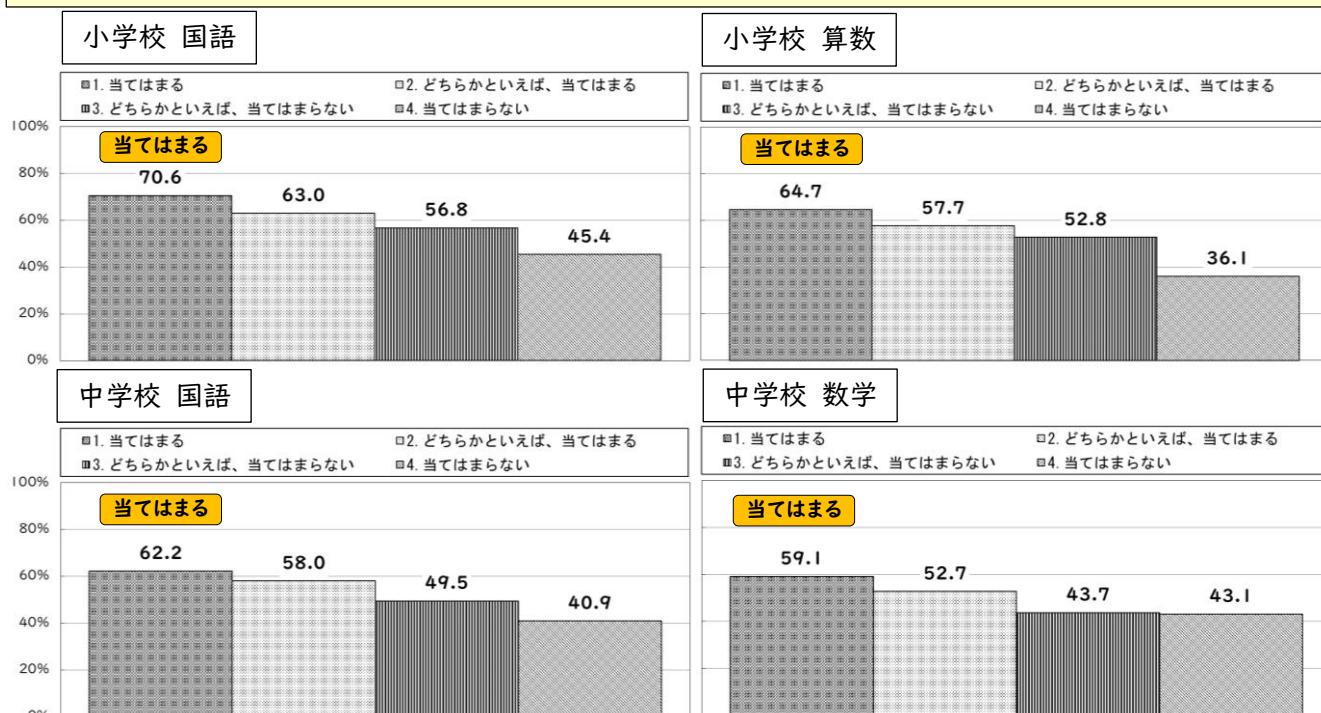
中学校 国語



中学校 数学



質問 38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



【変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してよりよい社会を創る力の育成】

学校においては、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養といった、資質・能力の育成を重視した教育を展開するために、全ての教育活動において、児童・生徒が単に知識や技能を獲得するのではなく、学んだことを活用したり、考えを伝え合ったり、試行錯誤しながら自分の考えをまとめ、表現する力を身に付けることができる学びの機会を引き続き充実させることが求められていると考えられます。また、児童・生徒一人一人の学習の成立を促すための「評価」という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童・生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切です。

